

予算決算審査委員会報告書

令和6年3月18日

備前市議会議長 守 井 秀 龍 殿

委員長 森 本 洋 子

令和6年3月18日に委員会を開催し、次のとおり議決したので議事録を添えて報告する。

記

案 件	審査結果	少数意見
議案第2号 令和6年度備前市一般会計予算（文教）	継続審査	—
議案第17号 令和5年度備前市一般会計補正予算（第14号）（文教）	継続審査	—

《 委員会記録目次 》

招集日時・出席委員等	1
開会	2
議案第17号の審査（文教）	2
議案第2号の審査（文教）	12
閉会	63

予算決算審査委員会記録

招集日時	令和6年3月18日（月）	午前9時30分		
開議・閉議	午前9時30分	開会 ～	午後5時08分	閉会
場所・形態	委員会室	会期中（第1回定例会）の開催		
出席委員	委員長	森本洋子	副委員長	草加忠弘
	委員	中西裕康		土器 豊
		尾川直行		立川 茂
		西上徳一		石原和人
		山本 成		青山孝樹
		藪内 靖		松本 仁
		内田敏憲		奥道光人
		丸山昭則		
早退委員		山本 成		
列席者等	議長	守井秀龍		
説明員	副教育長 兼国際教育推進部長	守屋孝治	教育振興部長	石原史章
	教育振興部次長	春森弘晃	教育総務課長	竹林伊久磨
	教育DX推進課長	行正英二	放課後子ども教育課長	出射詩都
	社会教育部長	畑下昌代	社会教育課長	江見清人
	地域教育課長	池田満之	図書館活動課長	小橋智裕
	総合政策部長	濱山一泰	図書館事業推進課長	高橋清隆
	国際教育課長	丸山幸宏		
傍聴者	報道関係	なし		
	一般傍聴	なし		
審査記録	次のとおり			

午前9時30分 開会

○森本委員長 皆さん、おはようございます。

ただいまの御出席は15名です。定足数に達しておりますので、これより予算決算審査委員会を開会いたします。

本日は教育庁の審査及び採決としておりましたが、委員より採決日は別日に行いたい旨の申出がございましたので、本日の審査終了後に採決日については皆様にお諮りいたしたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

議案第2号令和6年度備前市一般会計予算、議案第17号令和5年度備前市一般会計補正予算(第14号)の2議案の審査を行いますことから、議事の運営に格別の御協力をいただきますようお願い申し上げます。

なお、いずれも補正予算の審査のほうを先に行いますのでお願いいたします。

それでは、議事に入ります。

***** 議案第17号の審査(文教) *****

まず、議案第17号令和5年度備前市一般会計補正予算(第14号)中、教育庁関係の審査を行います。

まずは、歳入から行います。

補正予算書の18ページをお開きください。所管別分類表は6ページです。

範囲は一括で行いたいと思っておりますのでお願いいたします。

○尾川委員 19ページの教育費負担金の文化財保護費負担金、井田跡発掘調査負担金33万円について状況を教えてください。どういう補正となったのかということ。

○江見社会教育課長 穂浪にあります井田の調査になります。この井田の調査につきましては、県の負担金と後に出てきます国庫負担金の両方を使って行っております。

調査の内容につきましては、令和2年度から行っておるんですけども、井田の今でも田んぼについては現役の水田ということになっておりまして、その水路でございますが、水路を今も古くから石垣の水路というものがございまして、それを使っていると。県の事業で農業排水の事業になりますけれども、その水路を改修しようという動きが出てまいりました。それが令和2年度になります。この水路のほうを、いわゆるコンクリートで固めて、石垣の部分も多くはコンクリートの水路にしてしまうというものでございました。それに伴いまして調査を備前市で進めているというものになります。

調査そのものにつきましては、令和6年度程度までは現地の調査というのを進めてまいりたいと考えておりまして、それに伴いまして測量でありますとか、いわゆる発掘調査で現地を掘りまして、どういったものがその底にあるのかというのを調査していくというものになります。

調査そのものにつきましては、進めておって順調にしております、それに伴いまして、例えば人件費でありますとか、そういったもろもろ、委託料でありますとかといったものの増減で補

正をさせていただいているというものでございます。

○尾川委員 じゃあ、令和6年度の予算、ちょっとようきちっと見切きってねえんですけど、一応引き続いて井田村の調査というのは、令和6年度までやるんですか。

○江見社会教育課長 来年度の当初予算にも計上させていただいております。

○尾川委員 これはほんなら100%補助事業ですか。

○江見社会教育課長 この県の負担金につきましては、そのとおりでございます。

○尾川委員 報告は、要するに顕著な何か所見というか、新たな発掘調査結果というのは出てきつつあるんですか。価値があるもんなんですか。

○江見社会教育課長 これも、一応現役の水田で実際に稲作をされていたということで、ここまで本格的に掘って調査をするというのは、今までなかったとは考えております。

形自体は、井田ができた350年ぐらい前から変わっていないのではないかとということで、今でもその水路の端々の底を掘ると、昔の木でありますとか、土台となる根石のようなものというのは、出てはきていると報告は受けております。

県や国の調査ですと、文化財の関係ですと、調査が全部終了した後に、冊子のような形で報告書というのを作成して発行いたしますので、その中で全体的な報告はさせていただくということになります。

○尾川委員 何人ぐらい、個数というかな、どのくらいを、全体としてアバウトでええんですけど、かけて、それから6年のどのくらいかけていこうとしとるんか、個数当たり、個数というて分かるどうか、1人当たりじゃな、7.5じゃったら7.5時間で何人分とかという考え方で。

○江見社会教育課長 細かく人数割で出しているということはございませんが、主にこれ埋蔵文化財管理センターの職員で調査を行っておりまして、会計年度任用職員を含めて、実働で約7名程度で行っているということでございます。

○尾川委員 人の手配がどねえなんかなと思うて、今言う要員がおるんかなと思うて。

○江見社会教育課長 今のところ埋蔵文化財管理センターの職員で対応し切れているとは考えてございます。

○尾川委員 100%注力したら、ほかのことができんようになろう。そういう意味を含めて質問させてもろうとんじゃけど。

○江見社会教育課長 ほかにここ以外の調査、発掘調査というのも行っておりますので、それは人員を分けながらということで、総数が先ほど申しました人数でございますけれども、それを例えばいわゆるシフトのような形で分けてやっているという御理解をお願いいたします。

○尾川委員 ミュージアムとか、旧アルファビゼンの資料館の問題とか、いろいろ盛りだくさんで、どう処理してそういう発掘も含めてやりながらね。この間もちょっと見とったら、瀬戸内と備前市と発掘史跡の数というたら、備前市のほうが多いと思うとったら、逆に向こうのほうが多いという数字を見てびっくりしたようなことで、そういう意味でやっぱりしっかり発掘して調査

して記録していくというか、検証するということが必要と思うんじゃないけど、その辺の人の手配がどねえなんかと思うて、それでうまいこといくんじゃないかと思うて。

○江見社会教育課長 委員おっしゃられますとおり、来年度以降、いろいろな業務というのが重なってまいるとは考えてございますけれども、今いる人員の中で何とかやりくりをして進めていきたいとは考えております。

○尾川委員 船山の遺跡の発掘はもうやめたわけ。その辺の報告もどねえなったとんか。

○江見社会教育課長 船山遺跡につきましては、あれは民間で建物というか——を建てることでの調査でございましたので、県や市が入って本格的な調査ではございませんでしたので、今年度でその調査というのは終了しております。

○森本委員長 ほかに質疑のある方。歳入よろしいですか。

○石原委員 22ページの教育費国庫補助金2件減額になっていきますけれども、こちら減額の状況といいますか、理由をお教えてください。

○江見社会教育課長 この2件につきましても、先ほど申しました井田の調査で、国の国庫分と御理解いただければと思います。

国庫補助金につきましては2分の1の補助になります。減額の理由でございますけれども、調査を行うに当たりまして、歳出にも計上させていただいているんですけども、測量をしております。これも令和2年度から継続して測量を行っていたというものでございます。

今年度も、当初予算では測量をするということで、計画をしていたんですけども、令和2年度から引き続きやっていて、かなりの距離をもう測量しているということで、県と協議をいたしまして、今年度そこまで測量しなくても、先ほども申しました報告は問題ないのではないかとこの協議をいたしまして、今年度の測量については、その委託についてはやめても大丈夫ということで、測量を、これも簡単なものでしたら直営で測量ができますので、そちらのほうに切り替えて、できる範囲での測量で必要な測量の距離を出して報告をするということで、今回委託については減額とさせていただいております。

○石原委員 下の歴史いきいき、これも井田に係るものか分らないですけど、これも丸々減額になっとなかなか、ということなんですけど、国から何らかの申請をされて補助金の交付を受けられるもんなんでしょうけれども、別に国のほうから別に何というか、指導というか、これどうだったのみたいな話にはならんのですか。

○江見社会教育課長 確かにおっしゃられますとおり、これが測量を丸々やらないということになりまして、県を通じまして文化庁になりますけど、文化庁にも相談をかけております。確かに当初の見込みが甘いんじゃないのというような一言はいただきましたけれども、これが例えば補助金の何らかの備前市の不利益になるようなものにつながるということではなくて、そういったことで進めているということで御理解いただければと思います。

○森本委員長 ほかによろしいですか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

歳出に移らせていただきます。

補正予算書の54ページをお開きください。所管別分類表は10ページです。

審査範囲は、まず54ページ、10款教育費、1項教育総務費から58、59で10款教育費、3項中学校費までを範囲といたします。

○青山委員 55ページの教育費の事務局費、8節の報償費、講師謝礼が232万円減になっているんですけど、理由を教えてください。

○行正教育DX推進課長 このうち160万円が教育DX推進課分となります。ICT支援員の配置とか、学校からの問合せ窓口の設置を行いますICT業務支援事業につきまして、今年度から直営方式で運営をしております。その関係で、研修を行うための講師謝礼とか、講習会の参加負担金を計上してはいたしましたが、実績見込みによりまして、今回減額しております。

外部講師につきましては、研修は実際にはあんまり実施せずに、外部講師による研修は実施せずに、直営で研修を実施しております。その関係で減額となっております。

○青山委員 残りも全部。

○丸山国際教育課長 残りの部分なんですけど、国際バカロレア関係の外部講師を呼んで、そして市内での周知を図るということでしたが、私が赴任しました関係で、外部からお呼びする必要がなくなったということで、その講師料が報酬として減額されたということでございます。

○青山委員 ICT業務なんですけど、当初、少し学校の現場で混乱があったとか、先生方にかなり負担がかかったようなことを聞いておるんですけど、これについて研修がそんなに必要でなかったというおっしゃられ方になるんですかね。直営でやられたということなんですけど、先生方への指導は行き届いたんでしょうか。

○行正教育DX推進課長 研修が必要でなかったというよりは、直営で研修を実施したということなんです。学校で使うソフトであったり、そういったものを直営で実施したということなんです。

○青山委員 人手なんかは、足りたんですか。直営ということは、専門性のある職員が出向いていったんじゃないかと思うんですけど、小・中学校全部なんですか、うまく回ったんでしょうか。

○行正教育DX推進課長 実際には、集合研修ですね、市役所にICT支援員に集まっていたら、集合研修を行ったというのが実態でございます。

○青山委員 現場でいろんなことが起こって、そのたびにどうしたらいいのかなということになると思うんですけど、最初の委託する場合に、各校うまくそういう要望とかに応えられるだけの人員配置の辺はどうなんですか。

○行正教育DX推進課長 実際には、ICT支援員2名、ヘルプデスク2名で現在運営しております。それから、正職もそれに加わって、学校の支援をしているような状況です。ただ、引き続きICT支援の人数配置が必要ということは考えておまして、募集も随時かけてる状況でございます。

います。

○**青山委員** 電子黒板もこれからどんどん購入されて使われるということなんで、ぜひ現場の先生が困らないようにというか、行き届くようにお願いしたいと思います。

○**立川委員** 今のところでお話があったんですけど、外部講師を呼んでやろうという年間計画、予算を取っておられて、いや、実は内部職員で賄えたんだと、こういう計上の仕方に何か問題があるような気がするんですけど、職員さんでこのS Eさんのスキルとかレベルまでいけたと判断されたんですか。

○**行正教育DX推進課長** まだまだ研修は必要かなとは考えておまして、今後とも必要に応じて外部講師もお呼びして研修を実施していきたいと考えております。

○**立川委員** 本当にそういう計画をされたんなら進めてください。要らないものは削ってください。それだけお願いをしておきます。

○**中西委員** 54ページの事務局費の中の役務費、手数料が大幅に減額されているんですけども、理由は何なんでしょうか。

○**丸山国際教育課長** 国際バカロレア機構に納める金額だったんですが、本来でありますと、通常であると、一校一校それぞれ支払うということで、その金額を手数料として振り込むための送金等の金額を入れておりましたが、交渉の結果、グループ・オブ・スクールズということで、15校ということで、一括して申請することができるようになりましたので、その手数料が減額されているということでございます。

○**中西委員** 続きまして、56ページの使用料及び賃借料、システム利用料というのが、これはほぼ全額に等しい減額が行われているんですけども、理由についてお聞かせください。

○**行正教育DX推進課長** 岡山大学との連携協定に基づきまして、マイクロステップスタディーを使用する利用料となっております。今回、今年度につきましては、岡山大学の御好意によりまして、無償でマイクロステップスタディーを利用させていただいております。予算が未執行であることから、このたび減額させていただいております。

○**中西委員** これは今年度だけなんですか。

○**行正教育DX推進課長** 来年度も無償で使わせていただく予定になっております。

○**中西委員** これはどうして無償になるんでしょうか。今までは、利用料を取っていたものが突然無償になるというのは、普通一般には考えられない、一般企業との契約では考えられないんですけど、どういう理由なんでしょうか。

○**行正教育DX推進課長** 今年度、昨年度の成果も踏まえて岡山大学とも、いろいろ検証していく中で、今年度は無償でということと、今後、来年度ですね、連携協定を踏まえて、今、次のステップに向けまして、国の補助金等を活用した新たな事業を検討したいと、今現在、岡山大学側と検討しております。

○**中西委員** なかなかよく分からない理由で、例えば岡山大学の医学部に1億円お金を持ってい

っているからだとか、あるいはマイクロスタディーというのが役に立っているんかどうなのか、役に立たないものならこんな利用料は要らないだろうし、もし本当に仮に役に立っているものだとすれば、当然の対価を払うのが普通なわけですけども、岡山大学のほうが要りませんと言われるのは、何か理由が釈然としないんですけども。

これは検証して、いやあ、すごい役に立つんだ、これはあまり役に立たないんだと、そういう検証作業はあったんですか。

○行正教育DX推進課長 令和4年度、昨年度の実施結果につきましては、厚生文教委員会でも成果をお出して、活用実態に応じた学力の向上はあったと検証しております。

○中西委員 それで、やっぱし無料にするというのはどうしてなのでしょう。

○石原教育振興部長 我々としても、岡大さんからの御厚意ということで、非常に正直なところは驚いているというところもございます。

先ほど担当課長からも説明をさせましたように、現状のマイクロステップスタディーは、備前市以外でも全国的にも広がっていると伺っております。そういった中で、当初から岡大からの説明がありましたように、成果が着々と出ているようにも伺っているところでございます。

岡大のほうで、今備前市ともいろいろ相談をさせてもらっているところが、デジ田などを活用した次のステップに向けて、新たなステージに向かってというところで、いろいろ研究を進めていっていただいているという現状の中で、岡大としても、いろいろデータは習得したいというような思いもある中で、結果として何度も説明をさせていただきましたように、結果としては無償で使用させていただいているという現状でございます。ですので、成果がないから、それに見合う対価が必要ないということではございませんで、次のステージに向けて研究を進めていく中で、データとしても取得をしたいというところの思いが、我々としても活用させていただけるというところで、双方の思いが重なったということで、御厚意の申出があって、今回の補正という流れでございます。

○中西委員 そのマイクロスタディーを利用している自治体は何件くらいあるんですか。

○石原教育振興部長 私どもが把握している中では、少なくとも数か所の自治体で行われていると、それから来年度に向けても、いろいろ問合せ等入ってきていますと伺っているところです。

○中西委員 数か所というと、二、三件から五、六件ぐらいまでを言うのかなというような感じがするんですけど、岡大が作って有効だと言われるようなものが、その程度しか利用されていないということ自体が、私は利用されていないというのがどうなのかという疑問が残るんですけども、その数か所の自治体も、このシステム利用料というのは無料になっているのでしょうか。

○石原教育振興部長 他の団体の現状というのは、我々伺ってはおりません。

○中西委員 数か所という自治体だけ少し調べてまた教えていただけませんかでしょうか。

○石原教育振興部長 はい、調べてみます。

○青山委員 マイクロステップスタディーについて、効果があったように思うというのは、これ

は岡大側から聞かれたことだと思うんですけど、実際に例えば学力検査であるとか、日常生活等を見て、何か変化があったというものの数字的なものを調査されているのか、本市の場合ですね、それから教員のほうですね、これをやったことでどういう効果があったかという聞き取りとかは行われていないんですか。

○行正教育DX推進課長 実際に数字で検証は図っております。以前、厚生文教委員会でお示したのも、使用頻度と学力の定着というところで関連があるという検証結果となっております。学校のほうでも、朝学習であったり、そういったところで御利用いただいています、そういった意味で数字としては、具体的な数字は示せれないんですけども、実際には学力が定着しているんじゃないかと伺っております。

○森本委員長 内容が所管のほうに大分行き過ぎているので、このシステム利用料の減額についての部分で、もし聞かれるんだったら、あと一回まとめて手短にお願いします。

○青山委員 減額、それからこれ来年度も無償でやられるということなんで、大学だけのそういう検証結果だけじゃなくて、やはり主体は本市の教育なんで、現場の先生方の検証とか、そういったようなものをぜひ行っていただきたいと思います。

○行正教育DX推進課長 市としても、検証に努めていきたいと考えております。

○立川委員 システム利用料の1,141万4,000円を減額します。マイクロステップスタディーの分の岡大の協力で来年度も費用はかかりません。しかしながら……はしてくださいよという、何か交換条件みたいなものはあるんでしょうか。

○石原教育振興部長 まず、結論的にはそういったものはございません。岡大との関係性の中では、備前市とも包括連携協定を締結していただいているというところに非常に重きを置いてくださっているのではないかと我々としても捉えているところでございます。

先ほども申し上げましたが、やはりデータ分析というところでは、岡大もそこを望まれているというところが重視されているのかなと思っております。まだはっきりとしたことはもちろん説明をさせていただくわけにはなりませんけれども、次のステップに向かってそういった我々が、あっそういうことを岡大としても注目されているんですねと、次のステージに向けていろいろ研究を進めていращやるというところが、やはり我々も参加をさせていただいている岡大にとってのメリットになっているのじゃないかなという受け止め方でございます。

○立川委員 ギブ・アンド・テークはないよというところで確認をしておきましたけど、それなら包括連携協定しているんなら、当初予算も要らないじゃないですかという思いもありますので、その辺しっかり予算の精度を上げていただきたいということをお願いして終わります。

○森本委員長 この件、関連である人いないですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○中西委員 その下の負担金補助及び交付金、奨学資金の給付金というのが540万円減額されています。使ったのは60万円かなと思うんですけども、ここの実績と540万円要らなかった

理由について教えていただきたいと思います。

○江見社会教育課長 奨学金の実績につきましては、令和5年度で33人となっております。

減額の理由ですけれども、大きくはこの奨学金のうちで海外に留学する方の奨学金として出しているものがございます。これが1人当たり100万円になります。予算計上時ですと、1人ないし2人ということで計上しているんですけれども、利用がなければ、丸々減額をさせていただくということで、その分が大きいと思います。

それから、一般的な奨学金の対象につきましては、成績の部分が対象の範囲になってきます。いわゆる成績優秀者でないと奨学金の対象にならないでありますとかといったようなこともございまして、そのあたりで利用が少なくなっているのではないかと考えてございますけれども、実績に合わせたもので減額をさせていただいたということでございます。

○中西委員 お伺いしたのは、負担金補助及び交付金の奨学資金の給付金ですけども、今の御答弁でよかったということなんですか。

○江見社会教育課長 給付金のことでしたら、海外のものではなくて、給付ということになりますけれども、給付金につきましては先ほど申しましたように、成績の案件というものがございまして。それでなかなか応募というものがいないのではないかと考えております。

実績が上がらなかったということで減額をいたしているんですけれども、今後、そういったところも範囲を広げるといいますか、ハードルを下げるといって寄附できないかと考えてございます。

○中西委員 私も個人的には奨学金を受けた者ですけども、何しろ受けてお金を返す段が、若いときですからどうしても給料がそんなにありませんから、大変しんどい思いをした、奨学金については何か悪いイメージが私には残ってしまっていて、ぜひそれはハードルは少し下げてくださいながら給付をしていただきたいなとお願いをしておきたいと思うんです。

それで、その下の貸付金ですけども、当初予算では1,932万円、残金が264万円ですから、これは何かそれこそ海外の分がここに出てくるわけですか。

○江見社会教育課長 海外の留学というのが1人100万円というものを予算計上しておりましたが、そういった利用がないということで減額をさせていただいているものでございます。

○石原委員 備品購入費、機械器具備品の大きな減額ですけれども、これは一般質問でも言われておりますが、電子黒板ということで、重ねてになるかもしれないですけど、電子黒板はここで大きく減額をされて、結局どうなっていくんでしたかね。

○行正教育DX推進課長 先般の厚生文教委員会でも報告させていただいたんですけども、現在デジタル田園交付金のTYPE1というものに電子黒板の導入の事業を申請しております。これに伴いまして、今回、一旦、今年度予算は減額させていただいております。

内示時期につきましては、先般の委員会で3月中旬と申し上げたんですけども、その後、国のほうから連絡ございまして、相当の申請案件があるというところで、3月下旬になりそうだとい

うお話をいただいております。

○石原委員 御提案時には、財源として企業版ふるさと納税を見込んでの事業でしたけれども、じゃあ令和5年度でこの電子黒板導入事業については、各小・中学校とも協議調整もされてきたと思うんですけども、機器の選定であったり、かなりそのあたりは進んできていて、やっぱり財源としてデジタル田園都市の関係の交付金へ財源がシフトしていくということで、どの程度まで進んだ事業なんですか、進んだんですか。

その交付がいただけたら、また補正予算か何かで提案されて、ほんならスムーズに導入に向けていくものと捉えておっいたらいいんですか。

○行正教育DX推進課長 電子黒板につきましては、現在プロジェクター型のつり下げのものを使っております。こちらがもう10年近く導入から経過しております、かなりその照度といいますか、明るさが下がってきているということもありまして、明るい部屋ではかなり見にくいといった状況がございます。そういった中で、ディスプレイ型、通常のテレビと同じような形の電子黒板であれば、そういった課題が解消されるというところで、そういったディスプレイ型の電子黒板を導入するというところで、具体的な機種につきましては、今後その入札等もありますので、仕様を検討していきたいと考えております。

○石原委員 とにかく学校現場としっかり調整を図っていただいて、もう予算が可決されながら方針転換であったり、教育分野では特に最近目立つんじゃないかなと思いますんで、とにかくしっかり学校現場と調整をいただいてということをお願いさせていただきます。

それから、その下の国際バカロレア機構年会費2,134万4,000円が134万4,000円の減額ですけども、こちらの減額の理由というか、状況をお聞かせいただきたい。

○丸山国際教育課長 15校一括のグループ・オブ・スクールズというルールが適用されるということで、交渉が成り立ちまして、年会費のうち、10校に関しては10%減額、それから5校に関しては20%減額ということが適用されまして、その部分が減額されたとお考えください。

○石原委員 じゃあ、15校できっちりちょうど2,000万円になりましたということで理解させていただきます。

○尾川委員 今、説明があったんですけど、10校、5校という基準が、こんなのは、こういうルールみたいな、商法というか、カットがあったりするよね。要するに値引きですわな。こういうことが普通行われるわけですか。教育なんかのこういうコストを、何ぼ集まったから何ぼカットするとかという、ちょっとイメージがかみ合わんのんですけど、その辺説明してもらったら。

○丸山国際教育課長 私もこれまで一校一校でしかした経験がありませんので、15校一遍にというのは今回初めてでございまして、そういったルールがあるということも私は知らなかった次第です。国際バカロレア機構とお話をしていく中で、やはり今15校で備前市全体が取り組もうとしているということを、何とか支援したいという意思是非常に強く伝わってきまして、そのために交渉がうまく進んでいったと理解しております。

○石原委員 それから、その下の小学校費、中学校費、それぞれ出てきますけれども、システム利用料、さっきシステム利用料の話もありましたけど、こちらの利用料の減額の理由というか、状況をお聞かせいただければと思います。

○行正教育DX推進課長 学習者用のデジタル教科書になります。通常デジタル教科書というのは、先生方が使う指導者用というものと、あと児童・生徒が使う学習者用という2種類ございまして、今回のものは学習者用のものでして、本年度、国の実証実験で、英語は全校に、それからまた一部の学校に算数・数学が導入されております。その国の実証実験の結果も見ながら、現在保留させていただいているというのが現状でございます。

○石原委員 各小・中学校に教員用、先生用のか、何かさっき言われた英語と算数・数学については、導入がされとるということで。

○行正教育DX推進課長 教員用につきましては、主要5教科全てに入っております。児童・生徒用につきましては、国の実証実験で英語、それから一部算数・数学が入っています。

○石原委員 小学校費でいいますと、例えば当初でたしか3,194万1,000円、こちらシステム利用料、ほかのシステムも含まれとんか分かんですけども、それがここで1,000万円余り減額になっている。それから、中学校費も約半額程度の減額になつとんで、じゃあ国の実証実験もあるけれども、デジタル教科書導入については、想定どおり進んでおるということでよろしいですか。

○行正教育DX推進課長 教員用の指導者用デジタル教科書については、今までどおり進んどります。学習者用につきましては、市の財源での実施というのは、今回保留させていただいております。

○森本委員長 ほかによろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

次の範囲へ進ませていただきます。

58ページから10款教育費、6項社会教育費、1目社会教育総務費から最後まで、61ページ、13款諸支出金、2項基金費、1目積立金までを範囲といたします。

○中西委員 58ページの文化財保護費、委託料、歳入のところであらかた話は聞かせていただいたわけですけども、井田の農業用水をとるところから話が始まったものだったかな、記憶しているんですけども、そうすると、世界遺産、あるいは文化財としての井田の水田、水路をいらうということになると、調査が必要になってくるということだったわけですけども、なかなか大がかりなもので、年数がたってきていると、これは泥沼にはまったかなというような感じさえしなくはないんですけど、井田の井田を調査するという、もう一つは大切なことには間違いはないんですけど、こうやってやっていって、減額になっていくと、その理由は分かるんですけども、じゃあこの水路の調査というのは、あと何年ぐらいされるものなんですか。

○江見社会教育課長 水路の現地での調査につきましては、来年度で一旦終了という計画でござ

います。

○中西委員 来年度で調査が終わって、その上での保存ということになっていくと、何年ぐらいを見越しておられるのでしょうか。

○江見社会教育課長 先ほどちょっと説明をしていないんですけども、水路を改修するという事で始まって、当初は石積みをしている壁面についても、コンクリートでという話が県からはございました。その石積みにつきましては、残せる部分は何とか残せないものだろうかということ、県と協議をしてきました。

現在ですと、もう石積みがなくなってしまっている部分もあります。土だけのところもあつたりするので、そういったところについては、コンクリートで壁面をするというのもしょうがないであろう。ただ、石積みの部分については、石積みをなるべく残せないかというところで、底の部分、底張りの部分を、例えばヒューム管を入れるであるとか、底張りをする事で、コンクリート張りをするんですけども、石積みは、ただこれは市がやらないといけないということではないんですけども、実際に農業されている方が、例えば石積みを、石を積む勉強とかをしていただいて、自分たちで今後維持するのに石積みができないかというようなことを、いわゆる石積み教室というんですけども、石積み教室のようなものを来年度以降、市のほうの事業でできないかと考えてございます。そういうことは、来年度以降、数年かけてできるのではないかとということで、これは農業排水は県の事業で、その担当部局がまた文化財と違いますので、そういったところとも協議しながら、石積みを残す方向で今進めているということで、それは来年度以降の事業で実施をしていきたいと考えているところでございます。

○中西委員 じゃあ、新しい水路が使えるということになるまでには、やはりあと数年かかると、少なくとも数年かかるということでしょう。

○江見社会教育課長 そのとおりでございます。

○森本委員長 ほかにありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

歳出を終わらせていただきます。

続きまして、7ページをお開きください。所管別分類表は1ページです。

第3表繰越明許費補正に入ります。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

質疑がないということなので、以上で議案第17号中の教育庁関係の審査を終わります。

休憩に入ります。

午前10時25分 休憩

午前10時40分 再開

○森本委員長 委員会を再開いたします。

***** 議案第2号の審査（文教） *****

次に、議案第2号令和6年度備前市一般会計予算中、教育庁関係の審査を行います。

まずは、歳入から行います。

予算書は24ページをお開きください。所管別分類表は10ページです。

まずは24ページ、14款分担金及び負担金、2項負担金、1目民生費負担金から34、35ページ、16款国庫支出金、2項国庫補助金、9目教育費国庫補助金までを範囲といたします。

○尾川委員 25ページ、前に補正でも質問したんですけど、文化財保護費負担金で井田跡発掘調査負担金、予算では95万円の負担金になっとなんですけど、歳出を見にゃいけんのんですけども、内容について、先ほどある程説明をいただいたんですけど、もうちょっと深く来年度の計画について説明してもらいたいですけど。

○江見社会教育課長 先ほども説明をさせていただいた、今後も水路を石積みで継続をさせていただきたいということを進めたいということがございまして、その石積みの専門家、城壁とかの石積みも全国でやっているような方がおられまして、そこも石積み教室というようなものを全国的にされているような方がおられます。そういう方を呼んで、実際に石積みの体験教室のようなものを開けないかと考えてございまして、石積み教室の講師を招聘するものでございまして、実際にその石を積んでいこうかと思っております、石の購入費用でありますとかといったようなものを歳出では見ておるといこととございまして、ですので、事業としては、その水路の石積みを実際に積んでいこうかということを進めたいと思っております。

○中西委員 34ページの国庫支出金の教育費国庫補助金、教育振興費補助金、特別支援教育就学奨励費補助金、昨年度と比べると、半分ぐらいになっていますので、理由についてお聞かせ願いたいと思います。

○竹林教育総務課長 特別支援学級に通われる児童・生徒の人数の推移によりまして推計しておりますので、対象経費の2分の1が補助金となっております。増減としましては、人数等の増減かと考えております。

○中西委員 その上の事務局費補助金ですけども、ここが9万9,000円、新しい事業として、これは先般の厚生文教委員会で御説明があったところなのかなと思うんですけども、大変かなと思うんですけども、どうでしょうか。

○竹林教育総務課長 新しい補助金にはなりますが、不登校の児童・生徒の関係で、このたび備前中学校に自立応援室という教室、そういった学校に行きにくい子供の居場所づくりというような事業でございまして、自立応援室というのを整備することとしてございまして、そちらに置く備品に対して補助金がございまして、3分の1補助ですが、対象経費の上限が1校当たり約30万円ということで決められておりますので、その上限から出した補助金の額ということとございまして。

○中西委員 不登校の生徒に対する備品ということとお伺いするんですけども、人件費はどっかほかで出てくるんでしょうか。

○竹林教育総務課長 歳出のときまでに確認しとってよろしいでしょうか。

○中西委員 不登校の子供をここで自立支援教室で受け入れるとなると、誰か人がいない限りは、備品があるだけでは受入れができませんので、何かほかにもあるんじゃないかなという感じはしますんで、何ととっても教育分野、人がやっぱ大切だと思いますんで、ぜひ教えていただければと思います。

その下の教育費国庫補助金、学校管理費補助金、僻地児童・生徒援助費等補助金というのが、前年度と比べますと、前年度が241万円ですから、倍以上に増えていますんで、理由についてお教え願いたいと思います。

○竹林教育総務課長 スクールバスの購入の補助金になっておりまして、今年度は比較的小さい形のバスの購入をしておりますので、その分、金額が少ないと。来年度、スクールバスを2台購入予定ということで考えておりますので、その分で増額となっております。

○中西委員 その下の学校管理費補助金のGIGAスクール運営支援センター整備事業補助金、前年度が420万円、6年度が213万円ということは、半分になっています。これは何かGIGAスクールで、この変化はどうでしょうか。

○行正教育DX推進課長 ICT支援員やヘルプデスクの設置に係る経費に対する補助金として、来年度につきましては、1校当たりの補助基本額が下がるということと、補助率も2分の1から3分の1に下がるということで、半額程度の予算計上となっております。

○中西委員 国の補助金が減っていることに対して、備前市、あるいは岡山県でも、それに対する何か要望とかはされているんでしょうか。

○行正教育DX推進課長 現在はしておりませんが、今後そういったことも検討していきたいと考えております。

○中西委員 これはこれで運営ができるんですか。市が持ち出しを増やすということですか。

○行正教育DX推進課長 結果的に市からの持ち出しが多くなると考えております。

○土器委員 今、中西委員が聞かれたことなんですが、先生は何人つくんでしょうか。

伊部小学校の。

○森本委員長 歳出のときに聞かれるということで、お願いします。

○尾川委員 35ページの文化財保護費補助金、埋蔵文化財緊急調査事業補助金、名前が緊急なんですけど、これは僅かですけど、アップしとんですけど、内容について説明してください。

○江見社会教育課長 これにつきましても、井田跡の調査になります。今現在、現地での調査を行っているわけですが、来年度までと申し上げましたけれども、来年度は例えば測定の調査ではなくて、専門家を外部から呼んで、こういう発掘の結果が出ていて、それを現地で専門家に見ていただいて、御意見をいただいたりというようなことをしたいと思っておりますので、そういった内容での補助金で、それをするのに少し増額をしているというものと御理解いただきたいと思います。

○尾川委員 全然それは県か国か、まとめをせにゃいけんと思うんですけど、報告のチャンスを

ぜひつくって、早急につくってほしいと思うんですが。

○江見社会教育課長 それを対年度の結果で、来年度から7年度、再来年度にかけて冊子で報告書を作成したいと考えておりますので、その中で報告をさせていただきたいと思います。

○青山委員 27ページ、教育使用料の6節社会教育使用料、公民館等の使用料が昨年は175万6,000円、今年度は525万8,000円と、倍以上の増になつとんですけど、説明をお願いします。これは違うたんかな。

350万円、間違いか。見とるところ違うたかもしれん。

○池田地域教育課長 一番大きな理由は、やっぱりリフレに移ったことによって、収入関係が増えているということが関係しております。その関係で増えた形になっています。

○森本委員長 よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

次の範囲に行かせていただきます。

次が36ページからで、17款県支出金、1項県負担金、2目民生費負担金から45ページ、17款県支出金、3項県委託金、9目教育費県委託金までを範囲といたします。

○中西委員 38ページの民生費県補助金、児童福祉総務費補助金、第3子以降保育料無償化事業費補助金、これは恐らく人数で決まってくるのかなと思うんですけども、何人ぐらいを見込んでおられるのでしょうか。

○春森教育振興部次長 県独自の事業で、第3子が3歳未満の場合にやる事業です。人数ではなくて、令和3年度から5年度の3年間平均を予算計上させていただいております。

○中西委員 40ページの教育費県補助金、学校管理費補助金、部活動指導員配置促進事業補助金、昨年度から見ると30万円ほど増えていると、理由についてお聞かせください。

○石原教育振興部長 増えた理由としましては、報酬と通勤手当が対象になっておりますけれども、通勤手当の部分で、昨年度とは上限額が改善されたということから、増えた結果となっております。

○石原委員 42、43ページの社会教育総務費補助金、ここへ岡山県ハンセン病療養所の方との交流事業費補助金ございますが、これはどういったような事業で、どういったような規定で交付される補助金になるのでしょうか。

○江見社会教育課長 これにつきましては、ハンセン病療養所の現地に行って、その研修等で交流を行うといたしますか、そういったお話を聞くであるとか、研修をそこで行うといったようなものに対して、県から補助金が出るものでございます。

内容といたしましては、来年度、人権セミナーというのを社会教育課で行っておりますが、その一つの項目で、来年度は邑久光明園に訪問して、そのセミナーで、50名程度なろうかと思っておりますけれども、バスで行って研修を行うということを予定しております、それを使う場合には、毎回、県の補助金を頂いているという内容でございます。

○内田委員 44ページの教育費県委託金、3節教育研修諸費委託金、小学校における長期欠席云々かんぬん、これは何名ぐらいがいらっしゃるんですか。

○石原教育振興部長 令和6年度におきましては、7校の配置予定で計上させていただいております。

○内田委員 人数は分からないんですか。おおむねで結構です。

○石原教育振興部長 7校で7名でございます。

○内田委員 具体的にはどのようなことをされとんですか。

○石原教育振興部長 登校支援員という名称で我々ども位置づけをしております。なかなか学校に登校しにくい児童に対しまして、保護者と学校との間に立ち、子供たちが登校しやすくなるような支援を行っていくという役割でございます。

○竹林教育総務課長 先ほど自立応援室の職員配置のことでございましたが、支援員として2名、配置予定でございます。県費と市費で1名ずつの配置予定でございます。

○森本委員長 中西委員よろしいですか。

○中西委員 また、歳出のところで聞かせてもらってもよろしいですか。

○丸山委員 41ページ、9目の教育費県補助金の1節、教育活動を支える教師の業務アシスタント、昨年からいうと、20万円ほど上がっているんですが、人数が分かれば教えていただきたいんですが。

○石原教育振興部長 こちらにつきましては、3校での実施、支援員への謝金ということで計上させていただいております。実際にその学校に何人支援員として入れられるかというところにつきましては、後ほど回答させていただけたらと思います。

○丸山委員 この専門スタッフという言葉の微妙に何か分かりづらいような意味合いがあるんですが、ちょっと細かく分かれば教えていただきたいんですが。専門アシスタントですね。

○石原教育振興部長 教師業務アシスタント配置事業補助金でございまして、いわゆる専門の資格を有した教員ということではなく、地域の方々に支援員として入っていただいて、学力向上につながる活動をしていただいているという内容でございます。（後刻訂正あり）

○丸山委員 先生ではなく、あくまでもアシスタント、その方々が3校に、何名というのは後からって言われたんですが、3校におられるってということでよかったですか。

○石原教育振興部長 こちらは当然授業ではございませんので、授業が終わった後の放課後の時間を活用して、地域の方々に入っていただいて、学力向上につながるように、例えばプリントを中心教材として学習に向かっているように、それぞれの児童が個別対応できるような、それぞれの習熟度に合わせて学習に向かえるように補っていくということを目的としている事業でございます。そういった内容で学校に入らせていただいて支援をしていただいていると、そういう取組でございます。（後刻訂正あり）

○丸山委員 ちなみに3校ってどこか分かりますか。

○石原教育振興部長 香登小学校、伊里小学校、伊里中学校です。（後刻訂正あり）

○青山委員 同じところの、部活動指導員配置促進事業補助金なんですけど、どこの学校にどういったような種目で何名配置されているかというのは、多いようだったら一覧表を後でお願いしたらと思うんですけど。

○石原教育振興部長 部活動支援員でございますが、6年度の想定といたしましては、7名を予定しております。学校別、競技別でお答え申し上げます。

まず、備前中学校、卓球とバドミントン、次に三石中学校、ソフトテニスと吹奏楽です。日生中学校、アーチェリーに2名です。次に、吉永中学校、剣道でございます。

○青山委員 これは部活動地域移行、学校とのいろいろな関係があると思うんですけど、そういったような関係での配置ということはあるんですか。

○石原教育振興部長 地域移行の取組が入ってくる前から、このような部活動指導員の配置は行っているところでございます。

○青山委員 直接関係するものではないと捉えとったらいですか。

○石原教育振興部長 地域移行が始まる前から配置は行ってきたところですけども、やはりその地域で指導を担っていただく方の存在というのは、非常に大きいものではないかと思っておりますので、現状このように地域で指導して下さる方々、その学校に来ていただいて指導していただく方の存在というのは、今後非常に重要であろうと捉えておりますし、地域移行についても、こういった方の存在によって行われていくのではないかと重要視しているところがございますので、全く関係ないということではないと、非常に重要な存在である支援員の方々であると思っております。

○青山委員 ぜひ部活動の地域移行と連携を取って、貴重な人材になると思うんです。指導員が足りないというのが一番の移行の問題になっているようなので、よろしく願います。

○丸山委員 関連でなんですけど、昨年7名、今7名と言われますけど、7名を10名にというお言葉を記憶しているんですけど、いかがなものでしょうか。

○石原教育振興部長 令和5年度の当初予算におきましては、委員おっしゃられますとおり10名を想定して歳入歳出それぞれ計上させていただいております。ですが、実際に人材を確保、配置ができましたのが6名という形になっております。

○尾川委員 継続してというのは、昨年から今年というのは変更になつとんですか。例えばある部活が、部員がおらんようになるとかというんで、指導者というか、その辺はどういう動きになつとんか、今各備前中ほかいろいろ説明があつたんですけど、それは昨年から今年というんか、令和6年度の予定とその変更というんか、変わってくるようなことはないですか。

それと、教科にその先生が例えば武道なんかは、今たしか必修になつとりゃへんかと思うんですけど、剣道とか柔道とか、そういう先生は部活動とは別のイメージなんですか。

○石原教育振興部長 まず、2点目のほうからお答えさせていただきます。

この部活動指導員の方については、あくまで文字どおり部活動で指導してくださる方になりますので、そのような捉えでよろしいかと思ひます、部活動への指導ということで。

それから、1点目の地域移行についてのお尋ねかと思ひます。現状におきましても、市長部局にはなりますけれども、文化スポーツ部で取り組んでおりますが、小中一貫教育課とも連携をして取組を進めていっているところがございます。

○尾川委員 今、令和6年度と令和5年度との部活動のその指導者というのは違いが出とんどすかという。

○石原教育振興部長 令和5年度の実績と令和6年度の当初予算に計上している予算上においての違いを申し上げますと、令和6年度に想定をしております備前中学校の卓球、バドミントンは5年度の実績はございません。逆に5年度実績がありました、6年度当初では想定をしていない学校としては、伊里中学校のソフトテニスになります。

○尾川委員 今言う部活というのは、備前中なんかは、バドミントン、卓球は続けておると思ひますよ。続けておって、その指導者を派遣せんでもええというのは、どういう理由でそんなになつとんどすか。というのが、要するに5年度行けどんじゃつたら、6年度は行かあでもええんじゃねえかという、逆説に言うたらね。へ理屈言うんじゃねえんじゃけど。

○石原教育振興部長 伊里中学校のソフトテニスにおきましては、後ほど回答させていただきたいと思ひます。

○尾川委員 バドミントン、卓球は令和5年度は部活動派遣はなかつたと今答弁されたと思ひますよ。それで、今説明では、令和6年度は備前中のバドミントンと卓球は指導者が来る予定じやと聞いたんです。前から備前中のバドミントンというのは、部活の指導者はきょうたと理解しとるから、去年はなかつたというのはおかしいんじゃねえかという、具体的に言うたらね。

○石原教育振興部長 後ほど回答させていただきたいと思ひます。

○森本委員長 ほかにありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

そしたら、次の範囲に行かせていただきます。

44ページの18款財産収入から51ページの22款諸収入、1項市預金利子、1目市預金利子までを範囲といたします。

別紙の3、4を参照にしてください。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

そしたら、次の範囲に行かせていただいでいいですか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

52ページ、22款諸収入、1項貸付金元利収入、8目奨学資金貸付金元利収入から最後、59ページ、22款諸収入、5項雑入、5目雑入までを範囲といたします。

別紙5を参照してください。

○立川委員 52、53で奨学金の貸付金元利収入、1節で奨学金の貸付金元利収入ということで、返済と滞納繰越分が31万1,000円、分かれて上がっているんですが、この償還の見込みといたしますか、どの程度の回収を見込んでこの金額が出たんか。

○江見社会教育課長 上の返還金につきましては、33人対象で、例年の実績として9割程度は現年で入ってきているということで計算をしております。

下の滞納繰越分につきましては、実際に滞納されている方、もう長年という方もおられるんですけども、20名について予算を計上しておりますが、5%程度の方が実際に入ってきているということになっておりまして、その分で予算を計上させていただいているものでございます。

○立川委員 滞納繰越分の返済可能性、償還の可能性をお尋ねしたんですが、5名程度でこの金額を上げているということの理解でよろしいですか。

○江見社会教育課長 予算上はその数字で上げております。

○立川委員 残り15名の方については、手を打たれない。どういう手段で返済をお願いしているのか、今の御説明では見えないんですけど、もうほったらかしですか。

○江見社会教育課長 滞納分につきましては、まず年度初めに文書、それから納付書で通知をいたします。その後、納入いただければいいんですけども、返事等も、一応連絡してくださいということで申し上げるんですけども、返事もされない方というのも実際におられますので、そういう方については、電話等の催告というのを行っていきたいと考えておりますけれども、なかなか実際に仕事をされているんであろうということだと思いますので、日中なかなか連絡がつかないということもありますので、来年度、ほかの債権の滞納されている部署と連携等もして、夜間の訪問であるとか、その他の調査というのを進めたいと考えているところでございます。

○立川委員 大変御苦労されると思いますけど、その中でやっぱりさっきもお話が出ましたけど、払いたいけどちょっと苦しいんですというようなところの配慮もいただいて、例えば再分割といたしますか、もう一度分けるとか、そういった相談窓口、相談業務といたしますか、払ってください、連絡してくださいではなくて、払えなかったらこういう方法がありますよということを丁寧と一緒に進めていっていただけたらと思いますが、その点だけお答えください。

○江見社会教育課長 実際にお支払いをいただいている方につきましても、委員おっしゃられたのは、月、例えば1万円だと、このぐらいの期間で払えるから月1万円だけでも納入いただけないかであるとか、そういった相談は受けておりますので、実際に返答というか、レスポンスをいただいた方についてはそういった相談というのは受けられると御理解いただきたいと思います。

○石原教育振興部長 発言の訂正をさせていただきたいと思います。先ほど丸山委員から御質疑ございました41ページが一番下になります教育活動を支える教師業務アシスタント配置事業補助金についてであります。ここで答弁申し上げた内容といたしますが、45ページの上段にあります教育費県委託金、教育研修諸費委託金の中にあります、主体的な学びの基盤づくり事業委託金のことを、私が捉え違いをして、主体的な学びの基盤づくり事業委託金の内容を説明申し上げ

げてしまっておりました。

正しくは、41ページの教師業務アシスタント配置事業補助金につきましては、まさに文字どおり教師の業務を支える主に事務的な教員でなくてもできる業務を支援するという形で、今、備前市におきましては、全ての小・中学校に配置をしております。そのうち、2名分について、この教育費県補助金として補助を受けるという内容でございます。

○丸山委員 昨年、2校に2名で207万4,000円だった、今回220万円で、その20万円上がったという部分なんですけど、今は言われたように、全校に配置して20万円アップだけという話でいいんですか。

○石原教育振興部長 全額県から補助をいただければ、大変ありがたいんですが、現状2名分という枠になっているようでございます。

近年、教員の業務負担軽減ということで、教員でなければできないことに集中をしていただけるように、教師以外でもできるような部分をカバーしていこうということは、そこに人材を投じていくべきではないかということも、国、県からも伺っておりますので、我々としてもこういったところに補助をいただける対象が増えるように、県にもお願いをしていっているところでございます。現状としましては、2校分、2名分にとどまっておりますけれども、近隣に比べてもいち早く全校配置をしてきている備前市でございますので、少しでも教師の負担軽減につながるように、財政の支援も含めて、県にもお願いをしていきたいという思いでございます。

○丸山委員 先ほどの話になってしまいます。香登小、伊里中、伊里小と言われたのは、ここはもう関係ない。

○石原教育振興部長 そのとおりでございます。先ほど申し上げた3校の取組につきましては、45ページの教育費県委託金、主体的な学びの基盤づくり事業委託金についての説明でございました。

○青山委員 55ページの雑入、14節職員給食費徴収金、500万円ほどアップになっているんですけど、理由、内訳なんか教えてください。

○竹林教育総務課長 こちら学校給食の教職員等の人数とか日数とか単価で積算をしております。歳出側とも連動するんですが、昨年まで実際の決算見込額から推計して積算をしておりました。今年度、その実績見込みということでは、非常に分かりにくいと考えておまして、児童・生徒の人数掛ける日数掛ける単価というような、分かりやすい積算のやり方に変えたということが実際には影響しておまして、その関係で幾分増になっているということでございます。歳出側の賄い材料についても、同じように人数掛ける日数掛ける単価というようなやり方に変えております関係で、若干増えておりますが、給食費の単価としましては、今年度と同額を見込んでおるところでございます。

○青山委員 生徒・児童数に変えて見込みをとということなんですけど、増えとるということは、児童・生徒数が増えることになるんですか。

○春森教育振興部次長 今増えた額のうち、一部分は認定こども園になっとりまして、約240万円ほど、基本の職員の給食費は変更がないんですが、今まで予算上は計上しておりませんでした研修講師や実習生の方が園には来られますので、そういった方々の食事代を、給食費を75回分で240万円、1食330円で計上しておりますので、先ほどの500万円のうち240万円は園になると御理解いただけたらと思います。（後刻訂正あり）

○青山委員 今年からということによろしいですね、伊部こども園の分が増えると。

○春森教育振興部次長 伊部こども園じゃなくて、全部の園に対するいろいろな講師の方とか、実習、学生の方がある程度の期間、保育士さんになるための実習とかに来られるときの給食費というのを徴収するので、その部分の費用が240万円ほど増になっております。あと250万円ぐらいは、こちらのほうの増になります。

○中西委員 これは10園全部で、今までにはこれはなかったんですか。

○春森教育振興部次長 徴収はしてはしましたが、予算上の計上はしていなかったと、今回は徴収していたものも、予算上に計上した形になります。従来から徴収していたのは事実です。

○中西委員 予算上は計上していなかったけども、実際にはどこの品目でお金は入ってきとったんでしょうか。

○春森教育振興部次長 同じ費目に入っております。

○中西委員 じゃあ、当初予算よりは、決算の段階では、そこは幾ばしか増えていたというわけですね。

○春森教育振興部次長 必ず増えていたかというのは、ちょっと別でして、こちらに計上しておりました。

○中西委員 58ページの雑入、教育費雑入、特定教育助成金についてちょっと教えていただけませんか。

○江見社会教育課長 民間の文化団体、何とか財団とかがあると思うんですけども、それから市が行っている事業についても補助金が出る場合がございまして、具体的に申しますと、福武文化財団になりますけれども、そちらから補助金をいただいて事業を行うというものでございます。

○中西委員 それはどこに助成されるんでしょうか。

○江見社会教育課長 歳出につきましては、毎年だっぴという事業を行っております、そういったところに充てたいと思っております。

○森本委員長 ほかにありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

歳入を終わらせていただいてよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

休憩に入ります。

午前11時34分 休憩

午後 1時00分 再開

○森本委員長 委員会を再開します。

○行正教育DX推進課長 午前中に中西委員から御質問いただきましたマイクロステップスタデ
ィーの利用自治体数について御回答させていただきます。

全国19都府県で約1万名が利用していると伺っております。

○春森教育振興部次長 先ほど給食費徴収金について説明しましたことについて訂正をさせてい
ただきます。

園の給食費なんですが、実質の増は約220万円なんですが、先ほど研修講師とか実習生の話
で全額と言ったんですが、こちら間違えておまして、実際は職員数の見込みを現状に合わせる
のと、新採用職員の増加を見込んで198万円の給食費の徴収金増を見込んでおります、また先
ほどの実習生等のほうは24万円でしたので、訂正させていただきます。

○石原教育振興部長 午前中の御審議の中で、尾川委員から備前中学校での部活動の指導者の件
でお尋ねがあったかと思えます。

例えばバドミントンという種目について御説明いたしますと、地域のクラブと一部連携してい
るという活動状況もあるようです。

部活動にも在籍をしている生徒、それからその地域のクラブにも在籍している生徒がおりま
す。クラブの活動は、土日を中心に行われているようですが、備前中学校の体育館で行われてい
るということで、そちらのクラブの指導されている方が当然いらっしゃいますので、クラブに在
籍している生徒は、その方から指導を受けるというのは、クラブの活動の中であろうかと思いま
す。

クラブの活動と部活動の活動が混在するというはございませんので、確かに指導者が、外
部から見るといらっしゃるかのようには思いますが、それは部活動ではなくクラブの活動である
というふうに御理解をしていただけたらと思っております。

令和6年度におきましては、改めてこの部活動指導員ということで、学校からも要望が出てお
りましたことから、6年度の当初予算で卓球、バドミントンの指導員を想定しているという状況
でございます。

それから、令和5年度実績のありました伊里中学校においてのソフトテニスでございますが、
本年度の夏の活動以後は、もう活動されていないと、新年度も活動はないと伺っております。

○尾川委員 部長も混在というか、そこら辺のことを話しされたんですけど、今後のやはり部活
動というのを、それはもう指導者がイコールで、団体が違うと、組織的には違うと、建前的には
そうじゃけど、その辺のやっぱり混在というのは、ただバドミントンだけでなしに、部活動とい
うのはどうあるべきかというのを、一応その辺を、仕方ねえ言やあ仕方ねえんでしょけど、現
実じゃから。ただ、そういう難しさがあって、部活動はやるけど、地域のクラブには入らんとい
う、そこら辺の峻別というんか、よう整理していかんと、トラブルのもとかなという感じがあっ

て、その点何かあったら答えてもろうたらと思うんですが。

○石原教育振興部長 御懸念はごもっともかと思えます。例えば子供たちが活動中にけがをした場合、それは部活動としての活動中のけがになるのか、クラブの活動中のけがになるのかと、そういった課題も当然出てまいりますので、そういった点からも、混在をしないようなことは今までも、現在も、学校現場では非常に線引きを明確にしなければならないというところは出てきているように伺っておりますので、今後、土日を中心に地域移行も進んでまいりの中で、行く行くは平日の活動にも広がっていくものと思っておりますので、御指摘のいただきました点も、当然課題として対応していきたいと思えます。

○尾川委員 指導者が同じじゃから余計同じことになりますけど、混同というか、難しさが起こるんじゃないかなという感じがあるんで、そのクラブチームで指導者は違う、部活の指導者が違うというのは、はっきりするけど延長線になりがちなんで、その辺注意してもろうたらと。

○青山委員 関連なんですけど、以前部活動は、学校の教員を上げられた人が部活動の指導員として、備前中に入られたと思うんです。それと、クラブというのは、たしかミッキーズというバドミントンのクラブチームがあって、体育館を使って練習、あるいは土日の練習をされている。これはそのミッキーズの指導者が平日の部活動も兼任してやられるという理解でいいんですか。

○石原教育振興部長 現状におきましては、バドミントンについては伺ってはおりません。今、地域移行に取り組んでいただいているのは、備前中で申しますと、陸上とサッカーと伺っております。

土日を中心の活動から地域移行が進んでいくかと思えますので、今後将来的には休日のみではなく、平日に向かっても広がっていくものではあるかと思えますけれども、現状バドミントンについては、今もきちんと部活動とクラブの活動というのは分けて行われているということで、地域移行にはまだバドミントン競技は入っていないように伺っております。

○青山委員 要は一緒の方がやられるのかということで、一緒にやってもいいと思えます。というのが、部活動指導というのは、年間通していついつ何時間までやれて、いついつやるかというのは、これは指導者の都合で、学校との話合いで決められるとなっていると思うんです。ですから、併用でやってもいいんですけど、その辺の時間の組み上げというんですか、そういったようなところだけしっかり管理していただければいいんじゃないかなと思えます。

一緒の方がやられているという理解でいいんですね。

○石原教育振興部長 令和6年度の当初予算において想定をしております備前中においては、卓球とバドミントンにおいて、部活動指導員としての配置を想定しておりますので、現状は部活動はきちんと顧問が、部活としてある以上は、部活動指導員がおられましても、顧問は顧問として当然おります。そういった中で、6年度において備前中でも卓球とバドミントンの指導員を確保できれば、部活動の中でも指導していただけるということになるかと思えますので、そういった方を想定しているものと理解をしております。

○土器委員 今後スポーツ関係ですか、部活動ですか、土日、祭日に持っていくようになるんですか。

○石原教育振興部長 部活動の地域移行という取組におきましては、まず土曜、日曜日、祝日に行われている活動を、地域で受皿として、指導者を確保して指導していただこうと、地域にお願いをしようという流れが今年度から始まっております。

今後も、この取組は全国的に進んでいくものになりますので、そういう流れの中の捉えで御理解いただけたらと思います。

○中西委員 さっきの岡大のマイクロスタディーですけど、19都道府県で1万人が使っていると、かなりの使用料ですけど、この中で使用料が無料になっているのは備前市だけなんですか。

○行正教育DX推進課長 そのあたり把握できておりません。

○森本委員長 それでは、歳出に入らせていただきます。

歳出です。64ページをお開きください。所管別分類表は11ページです。

範囲のほうは、64ページ、2款総務費、1項総務管理費、1目一般管理費から109ページ、3款民生費、3項児童福祉費、4目保育幼稚園費までを範囲といたします。

○奥道委員 105ページ、3款3項の児童福祉費の19節負担金補助及び交付金の下から2番目、認可外保育施設等利用助成金が昨年度から400万円ほど減額になっているのはなぜかというのを教えていただけたら。

○春森教育振興部次長 こちらは対象になる児童の人数が、補助対象としてこちらは計上している人数が減ったためになります。例えば3歳以上の方であれば、見込みとしては16人が10人、3歳未満の方であれば8人が6人、対象が減少したことによる減額となります。

○奥道委員 ちなみに何人ぐらいとかというのは、分かりますか。

○春森教育振興部次長 今こちらのほうで不明です。

○奥道委員 じゃあ、結構です。要するに人数が減ったということで。

○石原委員 保育幼稚園費の先生方の報酬であったり、お給料であったりが、ここから移っとるかなと思うんですけども、その理由というか、どういう取扱いでそういうことになるのかお教えいただければと思います。

○春森教育振興部次長 今年度いろいろな事業の事務等の一括化に伴い、教育費の事務局費へ移動しております。

組織の中に一元化するために、会計年度任用職員等も含めて全部一元化しています。一部分を除きですけど、全てではないんですが、おおむね全部統一しとります。

○尾川委員 107ページ、需用費の消耗品費、昨年に比べたら2,600万円ほど増えてきとるというような、何か理由を教えてください。

○春森教育振興部次長 一番大きいのは、12月の議会で御承認いただきました、おむつの無償化に伴うものが一番大きい費用となっております。

○森本委員長 ほかにありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

次の範囲に移らせていただきます。

次が156ページ、10款教育費、1項教育総務費から165ページ、10款教育費、2項小学校費までを範囲といたします。

○尾川委員 157ページの事務局費、報酬で会計年度任用職員の報酬、対象人数を教えてください。それともう一つは、職務内容というか、仕事の内容、運転手じゃろうと思うんですけど、その辺を詳しく教えてください。

○竹林教育総務課長 まず、会計年度任用職員の報酬の内訳をお伝えしたいと思います。

4億908万1,000円のうち、3,140万6,000円が教育総務課分です。次に、小中一貫教育課分が1億9,067万3,000円になります。それから、幼児教育課所管分が1億6,345万1,000円、それから教育DX推進課所管分が2,093万7,000円です。それから、放課後子ども教育課所管分が261万4,000円です。

教育総務課所管分につきましては、内容としましては、スクールバスの運転員、それから事務補助員ということで、バスの運転手が15人分、事務補助が1人分ということで計上しております。

○尾川委員 事務補助というのは、スクールバスの運転の関係の事務補助ということですか。

○竹林教育総務課長 事務局での事務補助です。

○中西委員 156ページの給料、一般職給料、これは昨年から見ると大幅に半分以下に減額がされるんですけど、これはやっぱり社会教育部門が市長部局に行くということでこんなに減るのでしょうか。

○竹林教育総務課長 事務局費の一般職給料は大幅に増えていると考えています。

これも内訳を申し上げます。

一般職給料が全体で4億8,534万9,000円のうち、一般職の正職員として7,474万1,000円が一般職の正職分です。それから、任期付職員の分が総額で4,828万4,000円、それから先ほど民生費から移行といいますか、組替えになっております保育園の職員の給料分が4,149万9,000円、それから認定こども園分として3億2,082万5,000円が計上されておりますので、一般職の給料としましては、3億円以上の増になっているかと思えます。

○中西委員 任期付職員というのは何人なんですか。

○竹林教育総務課長 令和6年度分としましては、10人分計上しております。

○石原委員 今課長がおっしゃった、一般職給料のところへ特定任期付職員の方の給料も含まれるということで、こちらの部署で10名おられて、そのうちの4名が、資料に、ALTに係る予算内訳という資料もお出しいただいていますけども、ここのALTに関する職員の方が4名含ま

れるということで、こちらのALTに係る特定任期付職員の方というのは、どういった業務、25人はまさしくALTの先生なんでしょうけど、もう付け加えられる4名というのはどういう業務をされるんですか。

○春森教育振興部次長 ALTは、今現時点で特定任期は2人、雇用を検討している方がいますが、こちら両方とも普通のALTの方より厳しい条件をつけております。現時点でIB教育の経験がある方であったり、そういった方々を対象としたものになっておりますので、基本的には、ALT授業が基本で、学校に勤務していただく形になります。

○石原委員 さっきお二人は厳しい条件でと言われたんですか。

○春森教育振興部次長 任期付職員と会計年度の職員の中で、雇用条件が違いまして、任期つきの方を募集するときは、いろいろな条件が、会計年度の方よりも条件を厳しくして、職員という扱いになりますので、募集しているという形になります。

○石原委員 資料にもありますけど、会計年度任用職員で25人採用予定でしょうけれども、まさに園と小・中へお一人ずつで25人かなと思うんですけれども、そこに加えての特定任期付職員の方が4名、この4名は採用後どういう形でのお仕事を想定されとんですか。1園、1校にお一人ずつついた上での4名という方はどうなんでしょうか。

○春森教育振興部次長 令和5年度の事業については、現時点で園に10人、小学校に10人、中学校に5人という配置でしたが、この令和6年4月1日から間に合いませんが、直営化することに伴い、最終的には現状の25人よりも増やした体制でALTの業務を実施したいと思っておりますので、そういった形での25人と4人の方になって、例年より増加した形になります。

○石原委員 それから、委員会でも御説明あったのか分かりませんが、ALTに関してですが、今までの委託されておった事業から、今度こういう形で市で採用されてということなんですけれども、今日も出ていますが、金額だけ見ますと、合わせて1億5,615万円、それから今年度までの委託ですと、保育幼稚園費のALT、それから小・中学校に係るところ、合わせたらたしか1億4,900万円ぐらいで、費用的な面を見てもどうなのかなと、どういう目的というか、どういうところを期待されて、直営というか、もうこちらで雇用されてという、その流れについてお聞かせいただければと思うんですが。

○春森教育振興部次長 まず、基本的な考え方、今予算上の部分の形で増額しているようにお話になっているのは、確かに予算上の形では増額した形になるんですが、それぞれの方の応募に応じての資格の条件で予算化のときは、それなりの金額編成をしております。実際の応募については、この任期つきの方が今現状プラス会計年度の方もALTの方、幅広い2段階の予算編成をしているんですが、全ての方は低い予算のほうになります。初めは雇用しようと思っておりますので、今想定、ただしあくまでもそれなりの資格を持たれている方は除いてですが、現状のところは、実際の雇用するときの金額がもし4月1日契約になったとしても、委託金額よりも下回るという想定で考えております。

○石原委員 今日の内訳の資料にもございますが、159ページ、12節役務費の中の手数料812万4,000円のうち、798万5,000円がALT紹介手数料5人分ということで計上されていると思うんですけど、こちらについて御説明いただければと。

○春森教育振興部次長 こちらのほうは、我々が募集するだけでは、なかなか25人が集まらないという形で考えておりますので、ある程度の人数の方については、いろいろな委託業者の方、もしくは今現在、委託している小学校、中学校とかで教員免許を対外的に持たれているような方について紹介いただいて、こちらのほうがその手数料を払って、備前市へ移籍してもらおうと思っているものになります。

○石原委員 ここに5人分とありますけれども、じゃあこの金額を5で割って御紹介いただいた方へお支払いするということですか。

○春森教育振興部次長 基本5人分で大体150万円相当、掛ける5になるんですが、紹介された事業者の方にお支払いする金額になります。

○石原委員 そういうことで人件費で行きますと、民生費から教育費へ事務の一元化で移管されて、その分当然、教育費に係る人件費のところが増えましょうけれども、特にほかに教育費の人件費で、さっき特定任期付職員の方は10名になるということで、4名増というようなところも人件費の増に関わってくるんでしょうけれども、ほかに何か特筆するようなところで、人件費がアップということ、何か要因というか、何かほかにはないんですかね。

○竹林教育総務課長 会計年度任用職員の職員手当の部分で、現在、期末手当の支給を行っているところなんですけど、来年度から勤勉手当が、制度ができますので、そういったところでの増分、会計年度任用職員で対象職員の期末勤勉手当はほぼ倍になりますので、そういったところでの増というのがあるかと思えます。

○石原委員 それから、今のところの想定ですけれども、さっき言われた特定任期付職員の方が4名増になって10名になられるということで、まあまあ4月1日で機構改革があるんでしょうけど、任期付職員の方、ほかの6名の方というのはどういう役割につかれる方でしたかね。

○竹林教育総務課長 今年度と同様でございまして、国際教育の専門員としまして4名、社会教育の専門員として1名、それからバカロレアの専門員ということで1名の合計6名でございませう。

○中西委員 この資料で出ている、ALTに関わる予算内訳が先ほどの話でもありましたけども、これまでの委託料と比べると、どのくらい増減があるんでしょうか。

○春森教育振興部次長 先ほど御説明しましたとおりですが、一応は今予算上の金額が増えた形になるんですが、実質見込みとしても、4月1日で全部雇用できたとしてですが、トータルでは2,000万円か3,000万円ぐらいは減になる見込みで考えておりました。

○中西委員 2,000万円から3,000万円ぐらい、実際は安くなるんじゃないかという、予測だということですけども、現在のところALTの会計年度、あるいは任期付職員、何人ぐら

い応募があつて採用予定になっているのでしょうか。

○春森教育振興部次長 現状、特定任期の方につきましては、2人を想定しております。それから、会計年度につきましては、まだ現在、面接とかをしている途中なので、10人ちょっとになると見込んでおります。

○中西委員 それで、この会計年度任用職員の25人でこの7,121万6,000円を割ると、大体年間で言えば約300万円ぐらいですけど、この300万円という数字は、どこから出てきた数字なのでしょうか。

○春森教育振興部次長 こちらの金額、割る形ではなくて、我々が見込んでいるものとしては、想定としている金額は、1年目は4月1日基準でいくと、380万円ぐらいを見込んでおります。2年目は、先ほど説明がありましたように、勤勉手当、期末勤勉手当が2年目になると全額出る見込みになりますので、420万円ぐらいになるかなと、基本の給料の部分ですね。この部分につきましては、まず基準となる金額がやはりございまして、JETというところで外国人を雇っている全国的な形になっているんですが、JETの5年目相当が大体390万円、400万円弱ぐらいを見込んでいるので、初年度、備前市としては、フルの勤勉手当が出ない分、減るんですが、380万円ぐらいになって、ちゃんと2年目からはJETの最終の5年目を上回る金額420万円を出すぐらいの見込みで、今、人件費は考えております。

○中西委員 特定任期付職員は、4人で割ると、大体500万円ぐらいですけども、この金額の差は何なるのでしょうか。この500万円の根拠は何になるのでしょうか。

○春森教育振興部次長 特定任期つきにつきましては、もともと特定任期の給料表というのがありまして、その分の給料表に基づいて、一番下の金額設定になると、この金額ぐらいになるので、この設定になっております。

○中西委員 この特定任期付職員というのは、一般的なALTの授業を受け持つ以外にどういう仕事があるのでしょうか。

○春森教育振興部次長 この応募の段階で、IB教育をそれなりに受けられている方であったり、そういった方を条件として、特定任期の方については、募集要件にしたので、そういったものが今やっている備前市のIB教育に反映しやすい職員の方として、IB教育の授業を自分でされている方だったり、コーディネーターの資格を持っている方であったり、そういった方をベースにしています。その部分でいくと、新しく学校の先生方がIBを取り入れるときに、一緒になってよりよく円滑にできるのではないかという想定で、特定任期の方を募集した形になります。

○中西委員 しかし、会計年度任用職員部分が10名少し、それからまたこの特定任期も4人じゃなくて、今のところ2人だとすると、人数的にはやっぱり不足がある。同時に、もし2人しかなくて、IB教育をやろうとすれば、それは進んだところと進まないところと差が出てしまうのではないかという予測が立つわけですけども、それはどのようにお考えなのでしょうか。

○春森教育振興部次長 全ての学校に特定任期の方を配置するというではないので、ある程

度そういった方の主要な、まず取組をされている学校と一緒にあって、それがほかの学校に広がることを、まず特定任期の方については考えていますので、一応、今現時点では2人確保したと御理解いただけたらと思います。通常の会計年度につきましても、先日の各両方の委員会でも御説明したんですが、おっしゃるとおり、4月1日に足りない、それはもうおっしゃるとおりだと思います。もともとが外国人の方というのが、今現在2月に入って、一応外国人の方のキャリアフェアというような形で就職支援のフェアに行ったんですが、そういったところでも、やはり皆さんが就職する時期が、今の現在の契約が切れる時期というのが、7月、8月ぐらいという形で、外国人の方の契約サイクルに合った形になっておりますので、今現状を7月、8月に25人に近づけるような努力をできたらなと今思っておりますし、既に7月、8月向けの面接の予定も、この3月末からする予定になっておりますので、順次増やしていけたらと思っておりますので、御理解いただけたらと思います。

○中西委員 細かいところは分かりませんが、今のお話からすれば、IB教育が2人のところから進んでいくと。だとすれば、全校、中学、小学校、一斉にバカロレアの認定になる必要はないんじゃないかということにつながってくるんですけども、それはいかがお考えなんでしょうか。私はその点では、例えばこのお二人の方が、特定任期付職員の方がALTの会計年度任用職員の方も、そういう意味では、バカロレア教育ができるような指導をしていくというような立場にあるのかなと思っていたんですけども、今の説明だと、そうではないんで、その学校で進めていって、それを基にほかにも広げていくんだということになっていくと、全校一斉にバカロレアの認定校になっていく必要がないんじゃないかと思うんですけども。

○春森教育振興部次長 説明が不足をしております、外国の方が、その経験があったとしても、実際その方々の分が、日本の教員免許等がないため、そのままの方々ができるわけではございませんもんで、先ほど言いましたように、各種学校にこういったものだよってものを展開してもらって、ほかの学校にお話ししていただくと、さらにもともの今回の会計年度任用職員の方の募集についても、こういった経験はないけど、興味がある方をなるべく募集した形でしておりますので、そういったことが発展できたらなと思っております。

○中西委員 私は2つの点で疑問が湧くんですが、1つの点は、この特定任期付職員の方については、多少トレーニングを受けてこられた方、しかし、この会計年度任用職員の方については、比較的新しい若い方が想定されるのではないかなと思うんですが、そういう方の要は生活支援です、そういうのはどのように考えておられるんでしょう。自立して生活できるという一つのハードルはあったとしても、この日本、あるいは備前市、あるいは備前市の教育、いろんな相談、悩み事も含めた生活支援の在り方というのは、どのようにお考えになっとられるんでしょう。その生活指導について、行うような職員というのは、教育委員会の中におられるんでしょうか。

○春森教育振興部次長 基本的には、今回の応募については、もう日本で数年間ALTをされた方というのは限定になっておりますので、既にもう日本の生活というのは経験され、それなりに

日本語の理解ができるという形の方を募集しております。先ほど言いましたJETの方についてというのは、なかなか、いきなり日本に来られた方がおるので、そういった部分の、先ほど委員がおっしゃったとおり、そういった方々の生活支援に非常に、優秀なんですけど、困る部分もあるというのは、全国的に言われている話ですが、今回の方々については、もう日本で生活されていて、それなりに日本の理解があった上でできる方を募集して、まずしております。研修につきましては、まず初めに4月に来られたときに、教育委員会の中で研修をまずする形と、備前市を理解してもらうために、備前市の中のいろいろな施設を見て回って、備前市というものを理解してもらおうと思っております。また、その基本的な研修としては、春休み、夏休み、それから冬休みについては、市役所に来ていただいて、いろいろな研修をしたいと思っております。あと間の時期は、毎月なるべくZoomでオンラインのような研修をすることを企画しておりますので、そういった中で、今委員がおっしゃったような問題については、随時、本人さんたちの話も聞きながら、担当部署で実施していけたらと思っております。

○中西委員 丁寧な研修の話までありがとうございました。

その上で、もう一つの私の疑問は、生活について私はやはりそれなりの不安を持っているんです。外国で生活をするということでの、慣れているとはいえども、生活の援助というのは、私はやっぱり必要なのかなというような思いはしています。その上で、もう一つお伺いしたいのは、パスポートですね、これなんかの管理、あるいは国によっていろいろ制度が違うと思うんですけども、このあたりの出入国の管理、出入国管理局との調整とか、そういうのはどなたがされるのでしょうか。

○春森教育振興部次長 ビザ等の情報については、こちらのほうとして、まず採用と同時にいつビザが切れるかとかという確認をまずする予定でおります。ただし、あくまでも、今おっしゃられたような部分の申請手続というのは、今現在、備前市におられる方についても、いついつまでにこういうことしないといけないよというのは、ある程度話ししますが、皆さん自発的にできる方を募集しておりますので、既に現実、今何人かの方は御自分で手続をされているとお聞きしておりますので、基本的な形では、先ほど言いましたように自立しているという前提条件を持って雇用したいと思っておりますので、そこが難しいんじゃないかと言われるかもしれませんが、我々としては、そういった方を求めているという形になります。

○中西委員 研修なんですけども、採用前にどのくらいの日数、それから内容についてはお考えになっておられますでしょうか。

○春森教育振興部次長 現時点では、細かい部分はないですが、先ほど言いましたように、4月上旬は、まず市役所に来ていただいて研修を行いたいと思っております。細かいカリキュラムとか、どういったものをするかはまだ決まっておきませんので、御了承ください。

○中西委員 私は少なくとも公務員としての自覚を促す、これまでそういう職になかった人が、皆さん方のように1年生のときからそういうことをきちっと研修してこられた方とは違うわけな

んで、しっかり研修の中に入れていただきたいなと、公務員としての自覚はどうあるべきかというところの、これは非常に大切なところだと思いますので、お願いをしたいと思います。

○春森教育振興部次長 おっしゃるとおりだと思います。我々も面接のときにもそういったことを踏まえて、大丈夫かという確認した上で採用させていただいておりますが、きっちりと今後も随時、会計年度任用職員という形であれば、公務員であるということを踏まえて研修させていただけたらと思います。

○中西委員 採用する人数が4月の時点では、まだはっきりしないというところですので、また厚生文教委員会の中で委員長にお願いをして、4月以降の時点での職員の配置、どこにどのように配置するか、仕事をどのように分けるかというところの話をまた聞かせていただけたらと思います。

○尾川委員 今いろいろる説明があったんですけど、こういう直用になると、その雇用方法とか、変わったと理解したんじゃないけど、そういうコスト的に安うなると、そう取ったらいかんのじゃろうけど、そう聞こえたんですけど、実際、こういう自治体でいろいろALTを入れるところがあると思うんじゃないけど、そういう事例、先行事例はありますか。

○春森教育振興部次長 先行事例というか、もともとが令和4年度の12月に調査したものになるんですが、直接雇用という形で、JETプログラムと、それからJETプログラム外、直接雇用する方というのが、全体の大体45%ぐらい、以前の委員会では半々と伝えたんですが、45%ぐらい。それで、今現在、備前市がしているような委託契約というのが全体の30.8%ぐらいになっております。それ以外に、地元に住んでいる外国人の方がいたりして雇用するとか、ネイティブでない方も含まれている雇用形態が大体24%ぐらいと言われておまして、今、令和5年度分の調査は現状、多分国が取りまとめされているのでまだ分からないんですが、令和4年度時点の調査では、大体そんな形でなっておりますので、別に市が派遣契約から直接雇用に変えたとしても、おかしいことではないと思っております。

○尾川委員 42%というパーセンテージは聞いたんじゃないけど、具体的にこの近くでそういう方法、直用でやるとるところの事例というのは、名前は教えてもらえませんか。

○春森教育振興部次長 具体的にこの辺でどこが直接雇用されているかと認識していませんが、恐らく倉敷市さんとかは直接雇用があったと思っております。瀬戸内市さんとかは、委託で雇用されたりしていますので、確定ではないんですが、倉敷市さんが直接雇用だったかなと思っております。

○尾川委員 要するに労力が大変じゃろうかなと思って、担当者はよう替わるし、備前市の場合。それで、経験、キャリアが乏しいのに、そういうふうにやっていくということについて、非常に大変じゃなという感じで、今までの質問とは違うけど、そういう懸念を感じるんじゃない。

それと、紹介料なんか払うという感覚というのが、安定法には違反はせんのか。

○春森教育振興部次長 まず、紹介につきましては、法に基づいた契約になりますので、そこは

心配いただくなくても大丈夫だと思っております。

○中西委員 2つありまして、1つは直接今回雇用するということになってきますと、備前市の雇用をするという、正式職員でないにしても、会計年度任用職員を備前市の職員として雇用するという、ここの責任の重さについてはどのようにお考えなんでしょうか。

雇用してしまうと、それは常に備前市としては抱え込んでしまうということになってしまうわけですけど、その反面、例えばJETの場合は、たしか3年で学校を変わらなければならない。直接雇用の場合だと、そこは何年でもおられるということにはなる利点はあるにしても、雇用主となることの重さというのは、ここで25人どころか、29人も採用してしまうわけですから、その点はいかがお考えでしょうか。

○春森教育振興部次長 JETにつきましては、契約期間が5年であると思っております。ただ、学校が1か所で5年なのかどうかは別として、1回の契約が来られて5年という契約があります。それから、ただし途中3年目でやめられる方もおられますし、そういった形になりますので、あと直接任用についての御心配、非常にありがとうございます。基本的には、普通の日本人とか外国人とか問わずに、私としては、あくまでも一人の人間の方として、会計年度任用職員として採用していきたいと思っております。多分、委員会の皆さんがたくさん心配されている部分も分かっておるんですが、一応私としてはそういった形の今までの自分の福祉系の経験も踏まえて回答させていただけたらと思います。

○中西委員 つまり備前市の人件費、あるいは職員の数というのは、この間、正式職員じゃなくて、会計年度任用職員がすごい増えているわけですね。ここで教育委員会29人も増やすとなると、いかなものかというのは、私は思います。

それと、給料なんですけど、大学の先生ですけども、研究発表をしておられまして、例えばJETの給料はよいと答えたのは35%、民間会社は8%、直接雇用は11%。つまりJETのほうが給料はよいとALTは答えているんですね。先ほどの御説明ですと、JETを基準にしているんで、あまり大して変わらないということでしたけども、ネットでALTの給与はどのくらいかというのを引くと、報酬に直すと520万円ぐらいというのが出てくるんです。先ほどの金額でいくと、520万円には足りないかなという感じはするんですけども、それはどのようにお考えになっておられますでしょうか。

○春森教育振興部次長 さっき言いました初年度、2年目の説明をさせていただいたとおりで、最終的な形態として、本当に長い間の雇用になる場合であれば、雇用の給料のほうも、その方々の年数に応じていろいろなステップアップできるような手法を取っていったらなと思っております。最初の雇用につきましては、現状の今回の条例提案させていただいた形で進めさせていただいて、あとそれぞれ採用した方の年数に応じた形になるという形です。

○中西委員 派遣とか民間とか、直接雇用よりもJETの場合は、年齢層が若い、先ほども課長おっしゃられましたように、経験年数が短いというようなところで、こういうような比較をする

と差が出てくると、1年、2年でいくと、ALTの520万円からすれば、かなり低い金額になってしまうということの事実だけは残るんじゃないかと思います。

○立川委員 僕もALTでそもそものお話で申し訳ないんですけど、表をいただいて、全体でALTに係る予算内訳ということで、1億5,615万円という表が出ていました。さっきもお話が出ていましたように、給料プラス期末勤勉手当ですね、それからあと共済組合の掛金とか、社会保障のほうですね、これを入れるとざっと800万円近くなるんですね。というところはお考えいただきまして、今年の委託、ALTの、児福のほうで5,800万円、こども園ですね、それから小学校費で5,900万円、中学校費で2,900万円、3つ足しますと1億4,600万円の委託料で積んどんですね。先ほど来出ていますように、そもそもですけど、1億5,615万円出して、昨年より予算1,000万円ほどつけて、なおかつ大切な職員の労力、いろんな事務手続もあるでしょうし、先ほど出た研修であるとか、いろんなところで労働強化されるどころのデメリットを考えると、なぜこれ踏み切ったのかなと、どなたが結論出されたのか、大変不思議なところなんですけど、そもそもの取っかかりだけもう一度教えてください。委員会等々では、委託より費用が安くつくというお話も出ていましたけど、実際の数字を見たら逆なんですよ。それプラス目に見えないところの皆さん方の労力であったり、研修に関わられる人だったり、大変な労力を使われるんですけど、それを採用されるという一番大きなメリットを再度、そもそも論で申し訳ないんですが、お教えいただけたらと思います。

○春森教育振興部次長 直接雇用のほうが、最終的な形態としては、さっき言いましたように、今令和6年度の任期付きの費用が入ったりしている分が多く見えるんですが、最終的な形態としては、安く済むというのは確かに、計算上なっておりますので、まずその点の部分については御理解いただけたらと思います。予算上の話としては、また別としてですよ。さらに、一応市としては、現状いろんな部門で直接雇用を進めている形になっておりますので、その部分も踏まえて、ALTにつきましても、直接雇用へという形の話がございましたので、委託契約を見直してという話がございましたので、市全体としての考え方に基づいた一つだと御理解いただけたらと思います。

○立川委員 今お示しした数字、今年の委託料は1億4,600万円でした。今回全部25人満額になったとして1億5,600万円、どう見ても、直接雇用のほうが負担増やなど。先ほど言いましたように、人の力も当然かかりますし、それと直接雇用がいいんでしょうけど、ただしALTということになって、先ほどお話を聞くと、文化も違う、習慣も違う、おのずと感受性も違ってくる。そういう人の一生懸命一緒に職員としていこうと思えば、本当に目に見えないところでの労力もかかるんですよ。まあまあそれはいいとして、数字でどこで現れるんですか。これ予算書なんですけど、昨年1億4,600万円で済んだものが、今年は直接雇用にしたら1億5,600万円、数字に見えないところで得があるというのは、数字で長いこと生きてきましたので、理解できないんですけど。

○石原教育振興部長 まず、比較対照として、令和5年度の保育園、こども園、小学校、中学校に係るALTの委託料の合計は1億4,731万7,000円でございます。

これに対して、25人分のALTを直接雇用することに関しては、1億2,100万1,000円となります。

保育園、こども園に10人、小学校に10人、中学校に5人、合計25人配置をしていたものとの比較におきましては、今年度までの委託料との比較において、直接雇用を行うほうが2,600万円ぐらいは、コスト削減につながると見てとれるかと思えます。

確かに特定任期付職員4人分の計上を行っているわけですが、これはやはり備前市としても今までもこれからも英語教育に関しましては力を入れてきた一つの取組であると自負しておりますので、今後もこのような形でALTを充実させていきたいという考え方に基づいての増分と御理解をいただけるものではないかと思っております。数字の比較に関しましては、以上のようなことで、コスト削減につながっているということははっきりと申し上げることができると思っております。

○立川委員 我々の手元に来とる数字は、満額でいっとるわけでしょう、25人分、1億5,600万円。先ほど僕が昨年度146といたしましたのは、100万円以下は全部切っていましたので、1,200万円ほど増えるんでしょうけど、予算を通すのが1億5,615万円でしょう。昨年との比較は、いや違うんです。いや、もっと効率的になっていく。やめてくださいよ。ほんなら、そのとおりの予算書に直してくださいよ、理解できないですよ。この数字が違うということでしょう。先ほどおっしゃったように。この数字が全く違うということをおっしゃって、御理解してくださいというのは理解できへんですよ。

○石原教育振興部長 少し分けて御説明をさせていただきますと、今日お配りさせていただいてますALTに係る予算内訳の一覧につきましては、右に内容という欄がありますけれども、このALT特定任期付職員4人分というような形で、特定任期につきましてと、それから会計年度25人分で分けましたときに、会計年度任用職員25人分については1億2,100万1,000円と、特定任期に係る予算としては3,514万9,000円というふうになります。

比較するのであれば、当然現在の25名体制の委託料の数字と25人分の数字で比較すれば一目瞭然であるというところでございます。

確かに特定任期については、4人分は当然純増になりますので、当然それは増えてしかるべきの話でありますので、比較して述べるにはいささか強引な感じを受けますけれども、私どもの説明としては、25名体制を直接雇用に移行する上では、やはりコスト削減に努めたということが大きな要因の一つでもあるというところは御理解いただけるのではないかと思っております。

○立川委員 ALTの特定任期付職員は、直接雇用しなかったら要らないですかいるんですか。委託にしたら、この特定任期付職員も必要ないんでしょうという書き方でしょう。直接雇用するから、この特定任期付職員も4名分要するというをおっしゃっているわけでしょう。違うんで

すか。それがためにALTに係る予算内訳でしょう。

○石原教育振興部長 繰り返しの説明になりますけれども、特定任期付職員4人分については、今までの25名体制をさらに充実させようという趣旨から純増ということで、新たに採用する。業務内容的には当然ALTになりますので、ALTに係る予算ということでの資料要求がありましたので、当然これは含めて一覧にさせていただいていると御理解いただけたらと思います。ですから、さらに充実をさせようということで増える、これは当たり前の話でありますので、比較の中で論じるにはいささか支障があるのではないかと感じております。

○立川委員 今年度もALTに委託したら1億4,600万円で済むんでしょう。新たに特任の職員を使うからその分オーバーしていますよ。これは理解できますよ。今年度ALTに係る予算とすれば、1億5,600万円使うんでしょう。

この特任を使わないで、昨年のALTと比較したら、なるほど部長がおっしゃるようにべたべたかも分かりません。ところが、ALT強化しようということで1億5,600万円でしょう。切り離して考えるほうが正解だと思いますけど、部長のおっしゃられることもよく分かります。理解は少しできます。ところが、ALTに係る予算で1億5,600万円、昨年委託だけで1億4,700万円、100万円ほど訂正しときますけど、安くついてないですよという感覚です。その分プラスしているんでしょう、特任をというお話だと思いますけど、強化するために。それはそれで予算に盛つとるわけじゃないですか、予算に盛つとるわけじゃないですか。

○森本委員長 休憩に入ります。

午後2時10分 休憩

午後2時25分 再開

○森本委員長 委員会を再開します。

○中西委員 私もこの資料を今日読ませていただいて、役務費の手数料で驚いたんですが、紹介手数料5人分、これはどこにお支払いをされるんでしょうか。

○春森教育振興部次長 1つ目の想定としては、現在小学校と中学校に来ているALTの方を紹介していただく形を想定しているので、小学校、中学校との契約をしている事業者で、逆に備前市に残りたいというALTさんがおられた場合、その方を紹介いただくというのが1つです。それ以外の分につきましては、別にほかの民間事業者、全国にいろいろほかにも、今現在、小学校、中学校以外をされている委託事業者さんで紹介することの事業をされている業者のところに紹介できるような人がおりますかというのをお尋ねして、紹介できる方がおられたら紹介いただく形になります。

先ほど説明した部分として、備前市の募集要項は、普通のALTさんよりかなり条件が厳しいので、事業者さんから備前市の分を見ても、なかなか紹介する方がいないと言われるのも、紹介するには、やはり向こうも責任というものが発生しますので、自分から手を挙げてくる方は別として、紹介するには今備前市の募集要項、先ほど言いましたように、自立できることであっ

たりとか、国内での実績があることなんかの条件をクリアするのが非常に難しいと言われておりまして、今1人何とかできるかなということ言われている業者さんがいるんですが、その方と今調整中の話をしております、それ以外はもう今現状なかなか見えないので、ただ我々としては5人分ぐらいはこういった形で優れた紹介されるような方を募集したいと思っております。

○中西委員 なかなかハードルが高いということが分かりました。25人いないと、保育園、あるいは小学校、中学校、全体各校1人確保することができないというようなことになるということがよく分かりました。

そうすると、質の担保をどう図るかというところにかかってきますですね。

○奥道委員 157ページの事務局費になるじゃないかと思うんですけど、新規事業シートにある放課後子ども教育事業ですね、ばらばらにざあっとちりばめられていると思うんです。例えば人件費については、会計年度任用人職員の報酬が393万7,000円とかとシートにあるんですけど、10人を新たに採用するということに理解していいんですか。

○出射放課後子ども教育課長 放課後子ども教室運営に係る人件費、会計年度任用職員でございますが、直接学校現場で指導する方ではなく、それを統括するような方で、教育指導員という名称で1人雇用したいと考えて計上させていただきました。

新規事業シートには、教室巡回指導と書かせていただいておりますが、10校の教室そこにそれぞれの学校へ、教室へ直接指導に、子供たちを指導に入るのは、大学生ですとか、教員OBの方を報償費、講師謝礼という形で、その都度、謝金をお支払いしたいと思っておりますが、そういった方を取りまとめたりですとか、学校等の調整ですとか、最初の段階ではなかなか人が集まらないようでしたら、現場に直接入っていただくことも考えられますが、全体の取りまとめとしての指導する方を想定して計上させてもらっています。

○奥道委員 つまり159ページの報償費が1,700万円ほどあるのが、教室のそれぞれの指導に当たる、言うてみりゃ、先生の予算ということになるんですね。

○出射放課後子ども教育課長 お見込みのとおりでございます。

○奥道委員 じゃあ、170万円ずつ10人ということでもいいんですか。

○出射放課後子ども教育課長 こちらは10人ではなく、1つの教室に延べ2人程度配置できるように想定しておりますので、時間で、大体1日ですと3時間ぐらいで各教室をお二人ぐらいを毎日10か所というような計算でさせていただいております。

○奥道委員 ということは21人新たに例えば大学生なり、教員OBなりを探して、募集してということの予算ですね。

○出射放課後子ども教育課長 毎日を想定しておりますので、1か所について常時同じ人が2人というよりは、登録制にして、なるべく広くローテーションを組めるような形は想定しておりますが、1時間幾らというような形で計算させていただいております。

○奥道委員 ちなみに1時間何ぼぐらいを計算されとんですか。

○出射放課後子ども教育課長 1, 500円を想定しております。

○奥道委員 やっぱり、かなり人を探すのが大変じゃないかなという気がしますので、私、前提案した大学生にしっかり来ていただいたほうがいいんじゃないかと思うんで、学校等、大学にも連絡していただいてというか、そういうふうな手配はされとんでしょね。

○出射放課後子ども教育課長 大学生なども想定させていただいております。大きな力になるかと期待をしておりますが、大学、個別にお願いに上がったりはこれからになります。

○尾川委員 今、単価1時間1, 500円というて、それ本当採用できるん。ただ、形だけでこういう計画を立ててやるやると言うのは、実際ね、備前市まで来てくれる大学生やこうおりゃせんものよ、ほとんど。まして1, 500円程度でね。今コンビニのアルバイトだっておらんで困りょんじゃからな。1, 500円という感覚というのは、どんなんかなと思うて。どういう根拠で1, 500円ぐらいを予定しとるかということ。

○出射放課後子ども教育課長 こちらの単価につきましては、確かにこちらのほうまで来ていただくということを考えれば、それなりの金額が必要かなとも考えたんですけど、大学生のキャリア教育の場ですとか、地元の方のボランティアですとか、そういったところも加味しまして、あとはインターネットとかになるんですけど、塾の講師の平均の時給とか、あるいは今後県の補助金等も使えるものを想定しておりますので、そういったところの謝金の単価等も参考にして、総括的に考えて、この金額を設定させていただいております。

○尾川委員 やられるんなら、もっと検討して、本当にやりゃええと思うんですよ。そりゃ今頃塾の代わりするぐらい、塾行きようる子供を助ける意味で、すりゃええんでしょけえ、悪いことじゃねえけど、現実性の問題、もっと検討してもらうてやっぱりやってほしいなというのが、小学校まで来てくれりゃええんよ。じゃけど、実際、本当にどんなんかなというのを疑問に思うから、ただやるやると言っただけかなと、ジェスチャーはそれでええんじゃけど、その辺は深く掘り下げてみてください。

○石原委員 スケジュール表を見れば、6月か7月ぐらいから授業を、そこまでに支援員さん募集されて、恐らく本格的には2学期からぐらいになるのかなと見てとるわけですけども、これ既に放課後でいくと、放課後児童クラブさんなんか各校でされていて、細かい制度設計これからも分かりませんが、現時点で想定されとるのは、1年生から6年生まで御希望される子供さんはどんどんどうぞという想定でおられるということによろしいんですか。

○出射放課後子ども教育課長 全学年で希望者を想定しております。

○石原委員 これも現時点でしょうけど、毎日放課後3時間というようなことを言われていたけれども、ほんなら3時台ぐらいに終業した子供さんたちが、それから6時から7時ぐらいまでというところの想定ということによろしいんですか。

○出射放課後子ども教育課長 3時間というのは、準備とか片づけも含めてのところになりますので、ざっくり平均して大体3時間ぐらいを予算計上としては上げさせていただいております。

実際にやる場合の想定としては、放課後、授業が終わる3時半ぐらいから5時ぐらいまでがメインになるかと、今のところは考えております。

○石原委員 放課後、思い描くのに、子供さんが例えば御希望されるような子供さんが大勢おられたりする場合には、なかなかこの間、何か議会宛てにも保護者の方から、そこらあたりも懸念されておるようなお手紙届いていましたけれども、過去にも何かこういった事例もあって、NPOさんが運営されたりしましたけど、何か大勢子供さんが来てくれるのはありがたいけど、逆になかなか、皆さんで集中して学習を迎えられる環境がなかなか整わなかったというなたしかお手紙だったと思うんですけれども、だからそういう面もいいことじゃと思うんですけど、大いに、うちの孫なんかもし行ったときには、どうなんだろうかなと思うてみたり。今の想定ですけど、じゃあ、一応お二人の支援員さんの指導体制の下、各校でされる想定でしょうから、ある程度の定員というか、それも大体何人ぐらいまでの子供さんをお預かりしてという、幾らかそういった想定もあるんでしょうか。

○出射放課後子ども教育課長 学校規模によって希望者というような方があるとは想定をしております。具体的に何人までは、今現在、検討中のところではございますが、なるべく広く事業効果のあるものに制度設計していきたいなと思っておりますので、今後課題がたくさんあるということは認識しておりますが、一つずつ丁寧に潰して事業実施していきたいと思っております。

○中西委員 158ページ、委託料のバス運転委託料、新しくこういうのも項目つくっておられるんかなと思うんですけども。

○竹林教育総務課長 スクールバスの運転員、人数的に割とぎりぎりな状態で運行しております。欠員出ましたら、もちろん公募して採用ということを常日頃やっているわけなんですけど、どうしても病気等で急遽対応が難しいようなケースが実際、今年度につきましても、二、三回発生しております。そういったときに、運転員をある特定の路線を決めて、タクシー会社等に委託、その1日だけを委託するというようなケースでしのいでおります。そういったところを、当初予算で何日分かを想定して組んでおこうということで、今回初めて計上させていただいたところでございます。

○中西委員 その下の職員研修委託料、これは何に使われるんでしょうか。

○行正教育DX推進課長 ICT支援員の研修委託に使用したいと考えております。

○中西委員 英語体験事業委託料、昨年から見ると大幅にダウンをしているんですけども、今年度は昨年と比べて何か授業の中身、委託は中身が変わるんでしょうか。

○守屋国際教育推進部長 今年度と同じぐらいの回数は無理かなと思っております。せっかく今年度始めて評判が高かったテクノロジー関係は、引き続き実施したいと思っておりますが、これは基本的には実施するのに必要な機材をお借りする。できるだけ人的なところは、国際教育課を中心に私どものほうで行う予定を立てております。

○中西委員 工事請負費を聞くんですけども、今回施設整備工事はどこなんでしょうか。

○**竹林教育総務課長** 令和6年度の施設整備工事175万円につきましては、今想定しているのは備前中での、自立応援室での整備ですとか、特別支援学級が増えたときに、エアコンがない教室とかを使うケースがございますので、そういった教室にエアコンをつける工事費の計上になります。

○**中西委員** まだエアコンがない教室が幾つかあるんですか。

○**竹林教育総務課長** 普通教室とか特別教室、現在使っている教室につきましては、ほぼついているような状況でございますが、少人数教室ですとか、多目的教室とかといった名前で、一旦空いているような部屋がございます。特別支援学級が増えたときにはそういった部屋を転用して使っている状況でございますので、エアコンの設置というのが大体出てきているような状況でございます。

○**中西委員** 小学校、中学校とも施設整備工事というのは、今回本当に上がっていないに等しいような金額なんですね。ここでも今言われたような最小限のような工事しか上がっていない。備前市の場合、どうしても施設の数が多くて、雨の降る体育館があったり、いろいろ施設の老朽化が厳しいところでは、建て替えもしなくちゃいけないという中で、今回の工事請負費は何でこんなにどこも少ないんか。

○**竹林教育総務課長** まず、財政的な厳しさというのももちろんございますが、例えば今の施設整備工事費の減につきましては、5年度については、電子黒板の関係で電気工事等を見込んでおった部分が今回ないので、事務局費での工事は、例年これぐらいだという認識でございます。

小学校費、中学校費等で、それぞれ工事っていうのは、もちろん年度によって大きい、小さいございますが、老朽化ということもございますので、どちらかといいますと、修繕料が手厚く持つような形を、このところ目指しておりますので、大きい工事というよりは、修繕対応といったところが大きくなっておるところでございます。

○**中西委員** PTAの方から直接、雨漏りがして困るというようなお話を議会報告会のときに寄せられると、いきさつはいろいろもっと言いたいことがあるんですけど、しかし、そういう手当てが十分されていない、慌てて修理をすると、ここんところは計画的な教育委員会の修繕なり改築を含めた計画が、私は非常に大切じゃないかなと。これはまた別のときにお話はさせていただきたいと思いますが、ぜひその点は考えておいていただきたいと思います。

施設整備工事のところ、自立応援室ですか、2人対応するということですけども、どのような時間帯、あるいは仕事はされるんでしょうか。

○**石原教育振興部長** これは県が強く推進をしようとしている事業でもありまして、県の補助対象にもなっているということで、新年度、手挙げをさせていただいているものになります。

一番のメリットとしましては、人員の配置としては、県費の教員が1名、それから市費の教員1名ということで、2名体制で計画をしているものでございます。学校に登校しても、教室に入るのがなかなか困難であるというような生徒に対しての授業、学習を保障するという目的で行お

うということになります。

現状でも、別室対応というところは、県の意向もありまして、それが例えば保健室であるとか、そういった形も含めて、なかなか教室までは、学校へは何とか通うことはできるんですけども、教室になると少しちょっとハードルがあるというような生徒を対象に、学習支援を行おうということでございます。

○中西委員 例えば備前中につくられるということですけども、備前中で対象者というのは何人ぐらいおられるものなんでしょう。

○石原教育振興部長 人数につきましては、結論からいいますと、申し上げられないというのが非常に心苦しいところではありますけれども、県の指導においても、この学校でそういう対象者が何人いるかということの人数公表は、県からも指導がありまして、行わないようにと指導を受けております。ですが、やはり岡山県全体としましても、全国的にもかなりこういった対象児童・生徒が増えてきているという報道にもありますように、県も非常に強い意識を持って対応しようと、我々も理解をしております。

規模の大きい学校になりますので、そういうことで御理解いただけたらと思います。

○中西委員 家から外に出られない子、それから学校に来て教室に入れない子、それはあると私も思うんです。問題は、人数の問題じゃなくて、中学校に対象者がいるかどうか、これは公表できる、これは言えるんですか。

○石原教育振興部長 そのためにこの自立応援室ということを立ち上げて取り組んでいこうということでございますので、御理解いただければと思います。

それから、補足いたします。これは今後の展開ということになりますけれども、やはり一つの学校に特化した特定の学校の課題であるということではございませんので、ここを拠点に市内への展開、拡大ということも対応は今後も考えていきたいと思っております。

○中西委員 私自身は大変大切なことだと思っております。前にもこういったものを取り上げたことがあるかどうか。何かそういう話をどっかでしたようなことがあると思うんですが、もう一つは学校に来て、部屋に入れない、学校に来られない子たちもどっかで中学なり、その学校の校舎を利用しながら取組を進めていただきたいなというのを、これまでの相談事例からしても、なかなかそこは手が及んでいないところがあって、お願いをしておきたいと思っております。

○土器委員 マンツーマンの指導なんですか、それとも何人かの生徒に対して1人の先生がつくとか。

○石原教育振興部長 決して1対1と限定されるものではないと理解をしております。

個別で個々の生徒を想定しますと、やはり保健室のほうが、学校には来られても教室には入れないけど、保健室であればという生徒もいらっしゃるかと想像もしますし、隣の別室であればというようなこともあろうかと思っておりますので、決してこれが1対1ということになるとなかなか配置も大変になってまいりますけれども。

○土器委員 たしかあゆみじゃったかな、片上にある、ああいうような形ですか。

○石原教育振興部長 教育支援センターとしてのあゆみというものが、この備前片上駅の付近に開設しております。そちらの機能といたしましては、家からは何とか出ていくことはできるんだけど、学校となると、なかなかそこは課題と、学校と家との間を学習の保障機能として、備前市でも設置をさせていただいています。

そういったそれぞれの役割、機能を十分に生かして、実際にあゆみに通い始めて、通常どおり学校に通うことができたというお子さんもいらっしゃいます。

今回の自立応援室につきましても、もしかしたらあゆみを経てこの自立応援室を経て教室へという流れも、非常に我々としても期待をしているところでございます。ではありますけども、やはり一番大事なのは、子供を主体的に、中心に考えていって、やはり社会とのつながりということを重要視して取組を進めていきたいと思っております。

○尾川委員 最近卒業式とか卒園式へ行って、受入れの学校、例えば片上認定こども園なら、片上小学校の校長先生、教頭先生とか、あるいは備前中学校でいえば、いろいろ5校小学校があるので、そういった関連の人が出席せんような感じがするんです。そういう、今言う自立支援という面から、対外的に第三者から見たときに、内容的に今クローズでいろいろ教えられんと、公表できんというても、現場的には私らは知つとるわけです。給食だけ食べにいきょうとか、そういううわさを聞く。それはそれとして、要するに第三者からしたら、学校の校長先生、教頭先生なんかは子供の受入れ、あるいは卒業というときにどうなったかというのを、関心持ってもらって、そういうのを見ていただくというのが、こちらとすりゃ心強い感じがするんです。わしらが出るよりは、そういう人の関係者が出て、建前的にそういうことをやってもらうたほうが、より卒業式らしゅうなるんじゃないかねかなと、あるいは入学式でもしかるべき。その辺の教育部長としてどういうお考えなんかな。それは指示を校長、あるいは教頭にお任せなんか、それとも卒業式、例えば備前中学校の卒業式にもう出えでもええという指示が出とんかどうか。

○石原教育振興部長 個別に指示を出しているかという質問に関しては、具体的にそういう指示を出してはいないと捉えております。

御心配である点については、やはりコロナを経験した中でどうしても関係者のみに限るとか、人数の制限であったり時間の制限であったりってところは、やはりコロナ前を記憶されている方にとってみれば、少し学校の様子が変わってきているのではないかという点は、私どもも気にはしているところでございます。

そういった中で、本日いただきました御意見なども、学校現場にも共通理解をさせていただきたいと思えますし、我々とすれば、地域の中にある学校というのは、やはり地域の方々に支えられて成り立っていると、そうでなければ学校運営はできないと思っております。

令和6年度中においては、学校運営協議会コミュニティ・スクールを開設していく取組も始めていきますので、やはり開かれた学校づくり、地域の中にある学校ということを非常に意識し

て、地域の方々にも学校の思い、考え方というものも浸透させていただきながら、いろいろな御尽力、お力添えをいただきたいというふうに思っておりますので、今日の御意見は、現場のほうにも伝えていきたいと思っております。

○尾川委員 私は別に絶対どっちが正しいの、ただそういう支援がいる子じゃとか、幼稚園の頃から支援を要る子じゃとか、小学校でどういう受入れするとかという、当然体制を整えてくれと思うんですわ。支援員を置くとか配置を、そういうことはやってくりょうと思うけど、やっぱりは目から見たときに、卒業式あるいは卒園式、入学式のときに関心持って上の学校、あるいは下の学校がそういうふうに関心持っていって行くということは、非常に大事なんじゃないかなと思って。ただ、素人が言えるだけであって、その辺をよう教育委員なりのそういう意見も聞きながら善処してほしいというのがこっちのお願いですわ。

○石原委員 国際バカロレア教育に関して資料もいただいております、それから参考資料にも事業の説明、内訳もございますが、先ほど中西委員が取り上げられた159ページの一番下の英語体験事業委託料60万円、こちらの体験事業も参考資料では、バカロレア教育の一環としてのものなのかなと、参考資料68ページにございますけれども、こちらもバカロレアに関する英語体験事業ということでよろしかったでしょうか。

○丸山国際教育課長 先ほど御質問にありました英語体験事業というのは、これはバカロレア教育とは全く別の存在です。対象者も、国際英語体験事業では、いわゆるイングリッシュキャンプと呼ばれているようなイベントの形を取りますので、お子様を中心とした募集をかけてということになりますので、バカロレア教育の一環ではないと考えております。

○石原委員 どういう内容かあれなんですけど、参考資料ではバカロレア教育の費用の内訳として、こちらの英語体験事業委託料60万円も含まれて、この60万円が含まれて今日の資料の5,170万2,000円に60万円がプラスされて、資料では5,230万2,000円。

○森本委員長 休憩します。

午後3時03分 休憩

午後3時03分 再開

○森本委員長 委員会を再開いたします。

○石原教育振興部長 参考資料の68ページを御覧いただいたの御質問かと思えます。

表題としては、国際バカロレア教育の推進ということになっておりますけれども、国際教育課が所管している予算を計上させていただいているというところで、60万円がこちらに入っておりますけれども、本日お出ししております資料にあるとおり、IBとは直接関係のない体験事業ということになりますので、本日提出させていただいた資料からは、外させていただいております。

○石原委員 今日の資料で5,170万2,000円、国際バカロレア教育に関しての費用ということで、こちらの事業の財源については全て一般財源でよかったですか。

○石原教育振興部長 はい、一般財源でございます。

○石原委員 この表にもございますが、負担金補助及び交付金、161ページの一番上の負担金補助及び交付金になるのかなと、2,358万4,000円のうちの2,338万円、こちらがバカロレアに関する負担金。内容で見ますと、公式ワークショップに係る負担金ということで見ておりますと、学校内で先生方、コーディネーターの先生方対象で行われるワークショップ、規定の何か公式のスタイルでもって、教材でもってされるんでしょうけれども、これぱっと見ただけで、昨年度からも、今年度からかなり増額になってワークショップの内容も高度化してくるんだろうかどうなんだろうか分からんですけれども、このワークショップは、大体年に何回とか、もろもろ決まっておるんでしょうか。

○丸山国際教育課長 一緒くたにしてしまうと非常に分かりにくいんですが、公式ワークショップ、内容のところを御覧いただきますと、まず校長コーディネーターは、認定されるための要件として、必ず参加しておかなければならないということがありまして、今年度既に行っていただきましたが、異動等により新転任がありましたら、その方々には行っていただいて、国際バカロレア教育ということを御理解した上で、リーダーシップを発揮していただく必要があると。そしてあと、中学校の教科別ということなんですが、これは原則的にそれぞれの学校、中学校ですが、それぞれの学校の教科で1人ずつはワークショップへ参加しておかなければならないというのが中学校のMIPのルールがありまして、それへの参加ということです。

そして、ここまでは校外で行われるということが前提ですが、その後の小学校、中学校の教職員対象インスクールというものは、小学校は種類が違いますが、2日間ですね、それから中学校が1日の全教職員を対象とした校内でのワークショップ、これは今調整をしているところなんですけど、国際バカロレア機構が指名した、そのワークショップリーダーというのがそれぞれの学校ないしその会場に来ていただいて、それぞれワークショップを開催していただくという形になります。

今、石原議員おっしゃっていたように、これは特に後半部分の小学校、中学校教職員対象インスクールというものが非常に大きな参加費用を含んでいることになるんですが、これ原則的に来年度だけです。ですから、基本的にその部分は再来年度からはなくなると、その部分の費用は必要なくなると御覧いただいて、来年度に関しては、候補校1年目ということで、必ずやらないといけないということになっておりますので、その点御理解いただくとありがたいです。

○石原委員 159ページの9節旅費の普通旅費、このうちの622万円が国際バカロレアに関する旅費になるのかな。令和5年度、今年度も夏休み期間中でしたか、先生方研修に行かれていましたけれども、さっきも言われた新転任の校長先生や新しい先生、対象のさっきのワークショップもありましたけども、6年度も引き続き各校から先生方がいずれかのこちらの旅費で研修に行かれるということよろしいですか。

○丸山国際教育課長 そうです。それと、先ほど申し上げた中学校の教科別のワークショップに

参加するための旅費も含んでおります。

○中西委員 160ページの研修会等参加費、ここでバカロレアが2,338万円取ってしまうと、残りは、20万4,000円しか研修費が残らんのんですけども、教育の現場でバカロレアだけが教育ではないわけで、さっきの不登校だとかいじめだとか、あるいはいろんな今諸課題に対する研修があるんじゃないかと思うんですけど、こんなものでよろしいんですか。

○森本委員長 DXですよ、残りがね。そしたら、残りの研修部分を説明してもらいます。

○石原教育振興部長 特に小・中学校における教員研修につきましては、教員研修諸費、160、161ページ、第3目にあります教育研修諸費で予算を計上させていただいております。

その中で、具体的には講師謝礼であったり、普通旅費で県外出張研修などを想定した研修を予定したいと思っているところがございます。

○中西委員 国際バカロレア機構年会費、6年度当初予算が2,141万1,000円、さっきの最終補正で、このバカロレアが5年度で2,134万4,000円、最終補正の段階で134万4,000円が減額補正されているとなると、5年度で見ると、2,000万円ほどになるわけで、6年度はそれよりも100万円多いということなんですけども、これは2年度はやっぱり計算をすると、こういうような、5年度とはちょっと値上がるということになるんでしょうか。

○丸山国際教育課長 額自体は、実はシンガポールドルになっておりまして、先ほど来午前中申し上げましたとおり、グループをつくるということで、備前市に関しましては、10校に関しては割引があったりするんですけども、レートが変わることによって、為替レートの関係で差が出てくると思われまして。ですから、今、予算として出させていただいているものは、それぞれ今現在のレートとして考えておりますので、多少その金額が前後することはあり得ると思います。非常に変動が今激しい状態ですので、そのように御理解いただけるとありがたいです。

○西上委員 このバカロレアIBで、国の動向、県の動向というのは、最近の情報を教えてもらえたらと思います。

○丸山国際教育課長 現在、私がしっかりした数字を、今持ち得ていないんですけども、既に今、つい最近まで高校、認定校200校を目標にして、文部科学省は懸命に努力を続けてきたわけですけど、もう今239、240あたりまで一気に今増えてきていると聞いています。

本市もそうですが、自治体の動きも非常に活発になっておりまして、幾つか私も直接そこから聞くわけではないですが、宮崎であるとか、幾つかの自治体も今関心を非常に強く持っていて、今動き始めているというか、やはり市や県が中心になって動いているところは非常に増えてきていると思います。

○西上委員 先ほどからALTや外国語教育についてなんですけど、外国語教育の強化のための国際バカロレアということもあるんですけども、実際備前市の教員の英語力、英語の指導力というのは、はっきり言ってどのくらいのものなんでしょうか。

○守屋国際教育推進部長 新しい年度で英語の教員の異動もあるかもしれませんが、昨年度、今年度と各小学校、中学校、回らせていただきまして、実は文科省の新しい学習指導要領では、中学校、高校は英語の授業はオールイングリッシュだと決まっております。高校は分かりませんが、中学校はなかなかオールイングリッシュで進めるというのは厳しい状況にあるようです。私、小学校の英語に関しても、本市の場合には、保育園、こども園から英語に親しんでくるわけですから、できるだけオールイングリッシュを使ってくださいというお願いを小学校にもしております、専科の先生方にも。これはもう習慣的なもので、毎日毎授業同じ英語を使っていけば、生徒・子供たちもその英語を理解できるようになるんで、今後とも備前市の英語に携わっていただいている先生方には、オールイングリッシュでということは指導していきたいと考えております。そういう状況にあります。

○西上委員 せっかくやるんですから、オールイングリッシュで、ALTにお金もたっぷりかけるんですから、ぜひとも中途半端ではなくて、力いっぱいやっていただけたらと思います。

○土器委員 備前市全体で一斉にやるというのは初めての試みなんだということ言われたんですね。なぜ一斉にこうやるかということ、もうちょっとPRしたほうがいいんじゃないかなと思うんです。一般の人は分からないですからね。お願いします。

○尾川委員 161ページ、負担金補助及び交付金、旭東地区教科書採択協議会負担金が9万2,000円で、昨年は9万5,000円で、僅かですけど、最近のその活動というか、あと令和6年度の活動方針というのを教えてもらいたと思うんですけど。

○石原教育振興部長 令和6年度の活動予定としましては、令和7年度から中学校の教科書が変わることに関しまして、6年度において教科書採択に取り組んでいくという予定でございます。

○尾川委員 その協議会のメンバーは、どういう構成になつとんですか。

○石原教育振興部長 後ほど正確にお答えさせていただきたいと思います。

○石原委員 160、161ページの小学校費の報酬、会計年度任用職員報酬、この動きが大いかな。約5分の1ぐらいになつとるかと思うんですけど、何か動きで特徴的なところがあればお教えいただければと思います。

○竹林教育総務課長 小学校費の会計年度任用職員報酬でございますが、内訳がございまして、もともと、前年度以前も教育総務課所管分、それから小中一貫教育課所管分と、2つに分かれております。来年度の当初予算から、小中一貫教育課所管分で非常勤講師ですとか、教育支援員、登校支援員、そういった非常勤の報酬が、事務局費に一元化された関係で、今数字として2,150万4,000円ございますのが、教育総務課所管分のみになっております。

こちらにつきましては、学校事務員、それから小学校につきましては、事務員としまして、県費で基本的に1校1人配置があるんですが、万が一、県費の割当てがなかった場合に備えての事務員として1人分、合計の11人の報酬を計上させていただいております。

○青山委員 165ページの小学校費の19節負担金補助及び交付金、重度障害児通学援助費と

というのが新規で上がったんじゃないかと思うんですけど、92万4,000円、これはどういうことなのか、内容を教えてください。

○石原教育振興部長 令和6年度において、新たに小学校に入学する児童の中で、重度障害児として保護者に対しての通学援助費ということで、県内のいわゆる支援学校に通う場合は、保護者の方の送り迎えが必要になるということで、そういったことを想定した予算でございます。

○青山委員 それでは、今年そういう対象児童が出たということによろしいですね。

○石原教育振興部長 市内の新1年生でそういう児童を想定しての予算ということでございます。

○青山委員 その下の扶助費、特別支援教育就学奨励費、昨年は192万3,000円、今年は67万円と大幅に減になっているんですけど、その理由を教えてください。

○竹林教育総務課長 歳入の補助金のお話のところでもございましたが、人数等の推計による部分でございます。

○青山委員 その下の要保護、準要保護の児童就学援助費の減についても教えてください。

○竹林教育総務課長 同様でございます。

○尾川委員 163ページの教育振興費、報償費の記念品等ということで、ランドセルじゃと思うんですが、これについて考え方といって、テレビで放映したりしているんです。昨日の読売新聞に、ランドセルでお母さんが決めた色とか、今も後悔という、発言小町という記事が出とんです。読んでおられる人もおられると思うんですけど、その中にやっぱり子供の意見を聞いてということ指摘されとんですけど、このランドセルというのは、選択の余地というんが、これはサブで使うのかな、メインで使うランドセルなんか、その辺をまずお聞きしたいんです。

○竹林教育総務課長 御家庭でお任せしているような状況でございます。

○尾川委員 この記事を上げるけえ、読んでなかったら。どういうスタンスで、考え方じゃと思うんですけど、やっぱり色でも当然デザインも子供に任すべきじゃねえかなというのは感じるわけ。そうしたときに、あんまり幼稚園で全部渡すとかと、それは取り方じゃけど、それはあくまでも選択肢じゃと、別の選択肢、ナンバーカードなんか、点数、ポイントをもらえるというようなものがあるんですけど、その辺のことについての考え方というのは、今も言う、いや、希望じゃという、あくまでもそういう答弁なんじゃけど、その辺もう一遍確認で、どう理解されとん、こういう記事があつて、正しいかどうか分からんけどね。天下の読売新聞がこういう発言小町というんで、子供が、色をお母さんが決めたという記事が出とるわけ。その辺について今後の考え方は、どういうふうに、みんな持ってあれで行けえというんかどうかということをお聞きしたい。

○竹林教育総務課長 今年度から実施しております通学かばんの支給事業でございますが、3色でございます、青赤茶色ということで、当然申込みされる保護者の方が、子供さんと話をして決めたのかどうかまでは、申込上は分かりませんが、3色の中、今年度につきましては、かばんを希望されない方については電子地域ポイントということで、その4種類、かばん3つ、プラス、ポ

イントの中から選んで申請をいただいたところでございます。

幼稚園児の段階で選ぶこととなりますので、その時点で仮に自分で選んでいても、6年間、その気持ちが変わらないかどうかは、正直分からないというところもでございます。ですし、保護者の方も、もちろん、その時点で子供さんの意見を聞いてしていても、6年間の中でどうになっていくかというのは分かりませんので、一旦は今の申請の中で選んだ色というぐらいしか難しいんじゃないかなと思います。今年度の事業を実施する際にも、教育委員会のほうで、色を1色に決めて調達しようかという案も、一時期あったわけなんですけど、せっかく3色ある中で、やっぱり選べる状況にしたほうが、後々この色がよかったのにとかという話になりにくいかなということで、申請段階で決めてもらうということをやったところでございますので、来年度については、また3色の中から選んでもらうということを想定しておりますが、来年度につきましては、電子地域ポイントというのは、一応今のところ考えてないということで、今年度、実際のかばんを選んだ方よりも、来年度のほうがポイントがないのなら、いずれにしてもかばんをもらっとうかというようなことが増えてくるんじゃないかということは想定しております。そうなると、通常のランドセルも買っている、支給の通学かばんとあって、先ほど尾川委員言われたように、メインがどっちかみたいなのも、各家庭で考えていくことかなと思っております。

○尾川委員 革のランドセルがええと思うても、値段も高いかもしれんけど、その選択の余地というのが感じられんような気がするんじゃ。それは皆個人的な生きざまで、いろんな判断力があると思うんじゃけど、何かその辺の配慮というのが必要なんじゃないかなというんで、偶然こういう記事があって、なかなか大変じゃな、ランドセル一つ渡すにしても大変じゃなと思って、どうすりゃええかって、逆に言うたら、戸惑いがあるぐらいで、テレビ見とつてもそういう感じで。それじゃ選択して、例えば自分のポイントをもろうて、自分のカードからおばあさんが買う、おじいさん買う、それを使おうとした子供に対してどうなんじゃろうかとかと。

○竹林教育総務課長 一応申請時期には、かばんの見本を各園とかに巡回で持ち込みまして、実物を見ていただいた上で選んでいただいております、園に通われていない子供さん向けには、事務局に見本を置いて、時期を決めて見ていただいたりもしておりますので、そういった意味では、現物を見て選んでいただいたところで、満足して選択されているんじゃないかなと、事務局としては思っております。

○森本委員長 休憩に入ります。

午後3時31分 休憩

午後3時45分 再開

○森本委員長 委員会を再開いたします。

○石原教育振興部長 先ほど尾川委員から御質問ありました旭東地区教科書採択協議会の構成団体であります、備前市、近隣の瀬戸内市、赤磐市、和気町、吉備中央町の5自治体になります。

○森本委員長 次の範囲に行ってもよろしいですか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

164ページ、10款教育費、3項中学校費から171ページ、10款教育費、4項高等学校費までを範囲といたします。

○尾川委員 165ページの学校管理費の需用費、光熱水費が下がってるんですけど、テクニクを教えてもらえたらと思うんですけど。

○竹林教育総務課長 前年度の当初予算では、新電力の倒産といえますか、そういったことが影響しておりまして、中国電力の最終保障契約というもので、相当電気代の高い状況でしたので、令和5年度分予算としましては、その最終保障契約ベースの1年分で計上しておりました。それが実際には、令和5年度になりまして、中国電力の通常の契約に戻れたということで聞いております。ですので、今ベースの月額見込みから算出したところ、その最終保障契約よりは下がるということで計上しております。

○尾川委員 ぼっこう下がってるから、節約せえというてぼっこう節約令を発したんかと思うて。じゃあねえかなと思うんで、そういうことならええんです。

○石原委員 168、169ページ、高等学校管理費で需用費の中の賄い材料費、御説明いただければと思うんですが。

○竹林教育総務課長 高等学校費の賄い材料費でございますが、従前から夜食費補助金ということで、前年度当初予算にもほぼ同額で計上しておるところなんですけど、もともと実費負担に対して100%補助している形でございます。

パン、牛乳の日と弁当の日とがございますが、片上高等学校での夜食、給食ということで実施しておりました。

いずれにしても100%補助という形でやっておりましたので、この際、直接支払いを市でするほうが、学校なり生徒が一旦出してとかという形も不要になりますし、補助金の手続としましても、事務処理が補助申請から交付決定、それから実績をもらって、確定、請求といった事務処理が出ますので、そういったところを、事務処理の軽減も図れますので、直接、請求書を市にいただいて、そのパンの業者、牛乳の業者、弁当の業者に支払いを直接したほうが、事務の効率化にもつながるということで、予算計上の仕方を賄い材料費に振り替えたということでございます。

○中西委員 166ページ、委託料、浄化槽維持管理委託料が、前年度から見ると半分ぐらいになっているんですけども、どんな理由なんですか。

○竹林教育総務課長 従前は浄化槽の管理委託につきましては、幾つかのし尿処理の業者等が市内にございまして、ある程度、規模を割り振って、環境課での取りまとめがございまして、それぞれ随契ということでやっておりましたが、令和5年度の執行に当たりまして、入札を実施しております。そのときの実績見込み、今年度の決算見込額で要求したというところで、大きく下が

っているということでございます。

○中西委員 学校医の委託が前年度まで15万7,000円あったんですけども、今回はないんですけども、何か理由があるんじゃないかと思うんですけど。

○竹林教育総務課長 学校医の委託料につきましては、前年度までといたしますか、令和5年度までは、赤磐市の佐伯北診療所というところに吉永小・中で、こちらは中学校費ですので、吉永中学校分について、耳鼻科の先生をお願いをするに当たりまして、赤磐市の佐伯北診療所というところと委託契約を結んでいたんですが、その耳鼻科の先生が退職をされるということで、補充もと言われておりまして、代わりの先生を見つけないといけないというような状況になっておりまして、通常ですと、学校医は報酬、個人の先生ですと、委嘱して報酬でお支払いしますので、一旦、6年度の当初予算としましては、報酬でその分増やして計上しているというような状況です。

○中西委員 その見込みはどうなんですか。

○竹林教育総務課長 現在新しい先生を探す事務処理といたしますか、しておるところでございます。まだ正式な契約等はできておりませんが、岡山日赤病院で相談をさせていただいて、どなたか派遣をしていただけないかというような相談をしているところでございます。

○青山委員 同じ167ページの下のほうなんですけど、15節工事請負費、施設整備工事、昨年は4,445万1,000円ということで、来年度は496万1,000円ということで大幅減になっているんですけど、この減になった理由と、それからこの496万1,000円、何に係るのかということをお教えてください。

○竹林教育総務課長 中学校費、施設整備工事費が大幅に減ということでございますが、令和5年度の当初予算では、吉永中学校以外の4校の体育館のLED照明の事業費が入っておりますので、その分が丸々なくなるということでの減額となっております。

また、今年度につきましては、備前中にごございます水道用の揚水ポンプというのがございまして、その取替え工事などを予定しております。

○森本委員長 ほかにありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

次の範囲に行かせていただきます。

170ページ、10款教育費、6項社会教育費、1目社会教育総務費から177ページ、10款教育費、6項社会教育費、3目図書館費までを範囲といたします。

○中西委員 170ページの社会教育費総務費の報償費、講師謝礼について教えていただきませんか。

○江見社会教育課長 このうち社会教育課所管分が286万5,000円となっております。

大部分につきましては、まなび塾プラスで学習支援をしていただく方の謝礼となっております。

この内訳が、まなび塾プラス、10教室、市内にございます。10教室で、各教室2人ずつ、年間28回を見込んでおまして、その1回が3時間で、いわゆる時給といたしますか、時間で払うのが1,380円ということで、合計が231万8,400円、これがまなび塾プラスでの学習支援員の謝礼となっております。

そのほかは、地域学校協働活動の研修会の講師謝礼でありますとか、そういったような各事業の謝礼となっております。

○森本委員長 中西委員、残りの金額はよろしいですか。

○中西委員 社会教育から外れるところは、どっか別のところですよ、教育委員会とは。

○江見社会教育課長 これは地域移行ですので、文化スポーツ部の所管部分になるかと思いません。

○尾川委員 171ページ、報償費、記念品等、成人式の記念品じゃないかなと思います。かなり金額が下がったんですけど、それどういう理由で金額が下がったのかな。人の数が減ってきたんじゃないかなと思うけど。

○江見社会教育課長 記念品の単価自体は変えてはおりませんけれども、人数が変わっております。280人を対象と考えてございます。

○尾川委員 ちなみに、5年度は何人ですか。

○江見社会教育課長 300人で予算計上しておりました。

○中西委員 72ページ、社会教育費の13の委託料、行事企画運営委託料というのが176万円上がっているんですけど、何されるんでしょうか。

○江見社会教育課長 こちらも、文化スポーツ部、文化振興課の所管の予算であると思います。

○石原委員 171ページの報償費の中のアドバイザー謝礼、こちらについてお聞かせいただければ。

○江見社会教育課長 ときめきナビという子ども・子育て向けの冊子、パンフレットを年4回発行しておまして、そのときめきナビの編集委員という形で、市内の子育てNPOの方とかを編集委員として、取材等のお願いをしたりして編集を行っているというところがございまして、そのアドバイザー謝礼といたしますか、その編集委員の謝礼ということで予算計上しておるものでございます。

○石原委員 需用費の中の印刷製本費、こちらで該当するところ、何を印刷される費用なんでしょうか。

○江見社会教育課長 印刷製本費につきましては、先ほど申しました、ときめきナビというのを年4回発行しておまして、1回につき3,500部を印刷いたしますので、この金額で計上しているものでございます。

○石原委員 136万6,000円のうち、79万円でもってさっきのときめきナビを印刷ということで。

○江見社会教育課長 もう2件ございまして、印刷製本費としましては、まなび塾プラスで各校、学校に配るチラシと、それから二十歳の集いで、これも冊子というか、それを印刷をいたしますので、それも含めた金額で79万円でございます。

○中西委員 172ページの委託料、施設清掃委託料、昨年の144万6,000円が今回132万4,000円になつとる。これは中央公民館も含めた清掃料になるんでしょうか。

○池田地域教育課長 清掃費に関してですけれども、中央公民館の清掃関係は今入っていませんので、それ以外の吉永、日生等、これらの分のお金で入っています。

○中西委員 例えばリフレセンターが今度公民館になりますよね。あれもこの中に入っているんですか。

○池田地域教育課長 リフレセンターに関しましては、清掃については、職員で対応するという形で清掃は入れていません。

○中西委員 清掃がどのくらいの人数を配置するのかにもよるんでしょうけど、今のままだもなかなか清掃ができないのに、どうなのかなと。中央公民館の清掃がなぜこの中に入っていないんですか。

○池田地域教育課長 基本的に清掃は職員でやれることはやろうという形で、今は清掃関係は委託ではなくて自分たちでやるという形にしているためです。

○中西委員 これはやっぱり教育委員会全体で掃除をやっているんですか。

○池田地域教育課長 どうしても季節によっては落ち葉とか、そういうのがかなり出る時期がありますので、そういったところにおいては、教育委員会全体とかでフォローしてもらいながら対応しております。

○中西委員 やっぱり施設の清掃というのは、前も一般質問で言いましたけど、草がぼうぼうに伸びていると、そこで講演会をやっていると。特に磯田先生をお呼びしての記念講演でしたけども、私もあの伸び放題の草を見てびっくりしたんですけど、職員でやれる範囲と、職員でやれない、職員も自らの仕事を持っているわけですから、自らの仕事に時間を割いてやっているんで、施設の維持管理という点からしても、この清掃委託という中にはきっちりやっぱり入れるべきだと思います。やれる範囲とやれないことがやっぱりあるんじゃないかと。

○畑下社会教育部長 施設の清掃につきましては、市民センターへも、地域の皆さんの協力によってさせていただく部分もありまして、心苦しい部分もありますが、先ほどのリフレも人の体制が少ないということもあったんですが、前回の厚生文教委員会でも、3人体制で大丈夫かというお話もあったんですが、それにつきましても、そのほかの夜とか時間外については、会計年度任用職員とか、それからのシルバーさんに委託をして、幾らか対応したいと思っております。そのほか無理があれば、公民館の職員等で対応して、無理のない勤務体制でやっていこうと思っております。こちらの清掃についても、やはり先ほど課長が答弁したとおり、職員等で対応していくということにはなりますが、なるべく皆さんに気持ちよく使っていただけるように頑張っていく

いと思っております。

○立川委員 1点だけちょっとお伝えしておきますが、利用者さん、いわゆる会合とかセミナーとかに使われた方に掃除を、外の掃除もして帰ってくれという依頼をしているとお聞きはしとんですが、その辺の事実はどうでしょうか。

○池田地域教育課長 利用した方に、利用後の中での清掃はお願いはしています。もちろん、完璧にというわけではなく、できる範囲でやっていただいて、こちらのほうでフォローはしております。

○立川委員 ということは、実際はそっちにまで手が回っていないということなんでしょうか。使われている方も、もうそんなんやったら掃除して、外まで掃除して帰るんやったらええわというお話をちょこちょこお聞きするんで、心配になったんですが、本当に職員だけでやれるのかなと、大丈夫ですか。そういう事実は、御存じですか。

○畑下社会教育部長 使った部屋の片づけとか、掃除についてはお願いはしています。外の掃除につきましては、職員で対応できる部分でしていると思いますので、そういう形で対応していると思います。

○立川委員 外の草も引いて帰ってくれと聞いている人もあるらしいです。また、よくお調べになられて。何でかという、多分職員でもう回らないと思いますよ。その辺、実情をしっかりと捉えて対応いただきたいと思います。

○尾川委員 関連で、特によその施設、前にも言うたんですけど、例えば別の瀬戸内市の施設を使用したりする人なんかの苦情は、やっぱりその辺の差とか、備前市との比較の上で発言してくるわけですよ。気持ちは分かるんですよ。ようみんなで作って、管理していこうというのはよう分かります。だけど、管理できる場所とできん場所と、それから継続清掃、要するにこういうのが専門的な立場から清掃せにゃいけんとかというのがあると思うんです。だから、その辺を加味して、それはあっちやこっち、暇なんじゃから掃除ぐらいせえというて言うんかもしれんけど、それは言うちゃおしまいじゃからね。やっぱり利用者へしわ寄せが行きようわけですわ。できるだけきれいに長う使おうと思うたら、メンテをしっかりとやらにゃ、ぼろの機械でも、ちゃんとメンテやりや使えるんじゃから、その辺で説得してください。

○青山委員 173ページの社会教育総務費、19節負担金、こどもまなび体験事業補助金60万円、新規でついているんでしょうか。どういったようなことをするんか教えてください。

○江見社会教育課長 元来まなび塾プラスで体験講座というのを行っています。これは市からの委託という形で、市内のNPO法人さんとかに委託という形で行っております。

ただ、体験教室につきましても、いろいろな、こちらから知っているNPOさんに委託をするだけではなくて、いろいろと市内で活動されている方で、子供向けの体験的な教室であるとかといったようなことをされている方が、同じような体験事業をしたときに、委託ではなくて、補助金として市から活動費を補助していくことができないかということをお考えまして、メニューを広

げるという意味で今回、その補助事業として上げさせていただいているものでございます。ですので、まなび塾プラスの体験事業のメニューの拡大化の事業と捉えていただければと思います。

○青山委員 いろんな体験を経験させてもらうのはいいことだと思います。

このまなび塾プラスをやっておられるNPOさんなんかとの連携といいますか、調整はされるように考えられとんですか。

○江見社会教育課長 従来のまなび塾プラスの委託についても、継続して行います。回数が減るわけではございませんので、そのあたりで例えばメニューがかぶってしまうとか、そういうことになる、調整は必要かと思えますけれども、そういうことではなくて、委託で対応していないような何か体験というのを、これはできるよというふうな方がおられたとしたら、そちらの補助金で事業として行っていただけるのではないかと考えてのものでございます。

○青山委員 認識不足かもしれないんですけど、まなび塾プラスの運営をしてくださっているNPOさんというのは、全部ひっくるめてやっているのか、それともある部分だけをやってもらっているか。

○江見社会教育課長 体験講座につきましては、年間20回程度を想定して予算を計上しております。それぞれで、その1回ごとにやっている方というのは違いますので、それは継続して行っていくんですけども、何せ市から委託ということですので、やっぱりNPO法人さんであるとか、いろんな社団法人さんであるとか、法人格を持って、実績があつてやられている方というのが、どうしても主になってしまうので、例えば市内で何かの集まりで個人的にこういったこともやっているというような方がおられたとしたら、これは補助金として出していただいて、事業をやつていただいて、そういった体験を子供にしてもらおうということで広がらないかなということで、今回は補助金ということで計上したものと御理解いただければと思います。

○中西委員 174ページ、社会教育費の公民館費の委託料、空調設備保守点検委託料というのが30万6,000円上がっているんですけども、これはどこなんでしょうか。

○池田地域教育課長 リフレの関係になります。

○中西委員 その下の施設設備総合管理委託料、5年度当初では790万8,000円、つまり100万円から減額になっているんで、その理由についてお聞かせください。

○池田地域教育課長 施設総合整備の関係なんですけども、大きく変わったところは、今回伊部公民館がリフレに変わりましたので、その関係でお金が変わってきております。それと、全体的に落とせるところは落としていくというような形で、大きく項目が変わったという形ではなくて、内容を少し精査して絞っていったという感じです。

○中西委員 リフレは公民館になるんで、面積的には広がるんで、ここは減額じゃなくて、増えるのは分かるんですけども、もともとリフレのお金もここにあったわけではないでしょう。

○池田地域教育課長 今までなかったリフレの総合整備管理の関係が入ってきているんですけども、リフレの整備、総合管理する中において、結構項目的な見直しをかけた関係で、少し金額自

身を抑えられるところは抑えていったというところがあります。

○中西委員 あまり細かく聞きませんが、大丈夫なのでしょうね。

○池田地域教育課長 大丈夫になるように頑張ってください。

○中西委員 大変私は不安に思います。こういう維持管理に関わる経費をこんなに削減していくと、今後、施設がどんどん老朽化していくんじゃないかという懸念を私は持っていますので、十分その点を留意していただきたいとお願いをしておきます。これ以上言うと、職員のいじめになりますから、またどっかで一般質問で市長に申し上げたいと思います。

○尾川委員 3月7日にコミュニティ・スクール学校運営協議会を設置した学校についてということで、文書が出とんですけど、これに対しての裏づけになる予算というのはどこを見たらええん。今までもやっとなるような話を聞いたりするし、何かようはっきりして、これ再出発なんか、それでどこへ予算措置して、どのくらいの活動を計画しとるかというのを、この予算上で、概略でええですから教えてもらえたらと思うんですけど。

○石原教育振興部長 結論から申しますと、それがための予算について、特段の計上というものはございません。

○尾川委員 予算がねえというたら、やれやれ言うて、早う言やあ、頑張れ頑張れ言うだけで終わるとことかな。それなりのコミュニティ・スクールとは何ぞやとかということをやっているかにゃいけんのんじゃないかという感じがするんですけど、どういう取組、何でこんな学校側にしたら、人事権持った者が入ってきて、ああじゃこうじゃ、校長先生はおえん、先生がおえん、ええと言うたりするような話になったって困るんじゃないか。どういうふうなところにするのかなと思うて、その辺はまた予算上で聞かせてもらおうと思うて期待してきたんじゃないか。

○石原教育振興部長 このコミュニティ・スクール学校運営協議会につきましては、所管の文部科学省においても、導入を推奨されています。そういった背景の中で、県内でもこの設置に向けての取組は進んでいるという背景がございます。

先ほど来、尾川委員の質問の中におきましても、やはり開かれた学校づくりということは、コロナを経験したという経緯はございますがゆえに、ますます必要ではないかと教育委員会としても捉えているところであります。

やはりこの学校運営協議会コミュニティ・スクールの設置というものは、もう国の方針があるということにとどまらず、繰り返しになりますけれども、地域の中で支えられた学校運営ということが必要不可欠であると思っております。

改めて学校運営協議会の機能として、大きく3つ述べられておりますけれども、校長が作成する学校運営の基本方針を、この協議会、会議体として承認していただく。これは今までも学校の取組というものは、地域学校協働本部などを通じて、地域の方々にも浸透はしていったものだとは思っておりますけれども、この1つ目の基本方針を承認するという事は、学校の取り組むべき方向性、ベクトルをやはり地域の方にもしっかりと認めていただくということが必要な第一歩

ではないかと思っております。

そして、学校運営について、教育委員会または校長に意見を述べることができると、今までの評議員制度においては、校長の求めに応じて評議員の方から御意見を伺うというところでありましたけれども、しっかりと学校運営の中に入らせていただいて、アドバイスを含めた意見を述べていただくと、これはやはり協議会の委員として学校運営に、これは当然、厳しい御意見もあれば、賛同の御意見もあろうかと思えます。もう少しこうすればいいのではないかと、お知恵をいただくことも多々あろうかと思えます。それだけ発言をしていただくということは、委員の責任も伴うものであると思っております。

やはり地域の中にある学校の運営は、学校だけではないということが大前提になっているものと思っております。

3点目としては、教職員の任用について、これは教育委員会規則に定める事項に限りますけれども、意見を述べるができるということになっておりまして、御懸念の人事にまで地域が意見をするというのはというところはあろうかと思えますけれども、非常に限定的なものであります。一般質問の答弁でも触れさせていただきましたが、やはり学校が求める学校運営の中において、じゃあこういう分野にたけた先生方に来てもらってはどうかという声を委員会の中でも述べるができるかと御理解いただけたらと思えます。この人事に口を出すと、意見をするというと、いろいろ語弊もあるかと思えますが、決してそういう趣旨ではなく、個別の教師に対して意見をということでは全くございません。一般論として、こういう学校づくりには、こういう分野の先生方に来ていただいたほうがいいんじゃないんでしょうかと、そういう御意見としての発言ができると受け止めていただけたらと思っております。

いずれにしても、この3つの機能を有するのが学校運営協議会というものになりますので、今後もますます地域とのつながりなくしてはなし得ない学校運営であると思っておりますので、このコミュニティ・スクールを全ての学校で設置していくことによって、ますます地域とのつながりも強くなっていく、これはやはり地域の中にある学校の継続性を考えたときには、やはり子供たちは学校の中だけで育つものではなく、地域に見守られ、支えられての教育ということではないかと思っております。

○尾川委員 活動のための予算措置というのを、やっぱり金がなかったら動けんのじゃ。人と金じゃからね、仕事するというたら。そのための予算措置をぜひ補正でも組んでやってください。

○中西委員 174ページ図書館費、報償費、講師謝礼、5年度は23万4,000円、今回が42万円になっていますから、何かお呼びした事業があるんだろうと思えますので、お聞かせください。

○高橋図書館事業推進課長 増えた主な原因は、新図書館のサービス等についてこれから検討させていただく際に、ワークショップを開催して、その折に講師に来ていただくと思っております。この講師の謝礼でございます。従前からの増加分というのと、その部分になろうかと思っております。

ります。

○中西委員 ワークショップは何回開かれて、講師は何人来られるのでしょうか。

○高橋図書館事業推進課長 想定では2回なんですけれども、1回につきどれぐらいの謝礼で来ていただけるのかというのは交渉次第ですので、できるだけ来ていただきたいと思っております。

○小橋図書館活動課長 図書館活動課としましては、大きく変わっているものが、こども読書まわりの講師の謝礼ということで、毎年、絵本作家等をお呼びして、講師としてワークショップ、講演会等を開催させていただいております。これらが年度によって多少来られる方によって金額が変わったりということで、それが来年度分につきましては若干の増になっているので、図書館活動課としては、その分が若干増ということとなっております。

○中西委員 175ページの役務費、手数料というのが気になりましたので、この理由についてお聞かせください。

○高橋図書館事業推進課長 これについても、新しい図書館につきまして、実施設計がこのたび、もうすぐ納品になると思っておるんですけれども、その実施設計を建築基準法の第6条に規定されているんですが、確認申請という作業が義務づけられています。ですので、その確認申請に要する費用について、手数料、この中で263万9,000円ほどがその確認申請に係る費用となっております。

それから、昨年はこの手数料がなかったと思うんですけれども、図書を購入して納品していただくときに、その図書に関してシステム用のバーコードを貼付して、1件幾らという形で納品をお願いしています。昨年は、それを委託料という形で計上させていただいていたんですが、会計事務の手引でありますとか、それからそういう何費で払うのが適切かというのを勉強していったときに、本来1件幾らの手数料で払っているものを委託料で払うというのも、本来は違うんじゃないかということで、こちらの手数料に合わせて、残りですから100万円弱、98万5,000円ほどの費用をこちらの手数料に合わせて計上させていただいたということでございます。

○中西委員 175ページの備品購入費の図書、100万円ほどの減額になっているんですけど、理由について教えてください。

○小橋図書館活動課長 図書費の資料費についてになりますが、こちらから提出しました資料にもございますとおり、この中では図書館の本、それから雑誌、新聞代も含めたものにはなっておりますが、減少していております。一番大きな理由といたしましては、現在、新しい図書館を建設するっていう中でも、その要因となっているものが、施設の規模の小ささというのが一番に挙げられると思います。現在、本館、分館も含めまして、582平米というのが備前市の図書館の床面積の規模になるんですが、それに関して、ほかの15市の中で備前市の次に小さな面積規模が1,715平米ということになっております。備前市の面積が極端に小さい面積で図書を運営しております。

そういった中で、この表にありますとおり、平成27年度、368万1,000円の予算であったものが、その次年度から1,000万円に上げていただきまして、私たちも本を購入することにつきましては、大変たくさんの経費で買えるようになってよかったと思っはいたんですけれども、毎年、毎年、本の購入を進めておりまして、現在約15万冊の本を保有しております。今年度につきましても、購入を現在2月末時点では約4,000冊購入をしました。

それから、毎年除籍といひまして、本を古いものであったり時代に合わなくなったもの、いろいろ廃棄するための除籍という作業を行うんですが、それが約2,000冊ということで、その差額分で今年度で現在2,000冊ほど増加しております。

今の図書館の状態で行きますと、皆さんに見えていただける開架という部分、図書館の中にある本棚なんですけど、本を途中で抜くことができないぐらい、きつきつになっているような棚がほとんどで、中には本がそのまま置けずに、上に横に向けてとかというものがあつたり、それから前後2段になってしまつて、前の本をどけないと見ることができないというようなものまで出てきているような状況で、また片づけている閉架書庫というところもありますけど、事務所内の閉架書庫はもういっぱい、今市民センターの地下に閉架書庫を設けております。また、古い教育委員会の建物の中へも幾つかしまつているというような状況が続いておりまして、本自体が飽和状態ということもあります。

この中で、新しい図書館に向けては本来、費用も増加していつて、どんどん本をそろえていくというのがベストな状態であるとは思っているんですけれども、現在の施設の規模、それからそういった保有する場所がないということも含めて、市全体では経費の節減も合わさつて、そこに合う部分、減額できるところで、しかも現状と合わせて対応できるところということで、今回、非常に残念な思いをしながらではありますけれども、減額をいたしました。

これに関しましては、今度は図書館司書が現在の正職員でも、今年度3名、それから来年度にも配置していただけるということでお話を聞いております。選書の内容でこの減額分をなるべく補つていけるような本の選び方をしながら、利用者の方に不便がないような状態をつくつていければと考えております。

○尾川委員 課長が言われるんがよう理解はできるんですけど、ただこの一覧表から見たときに、これだけ近隣の自治体との今のスペースとか、いろんな建物とかという問題もあるんですけど、やはりこれだけの金額というと、書籍の質とか量とかがかなり差が出てくる。だから、私はまあまあ横ばいぐらいは何とかキープしてもらえるんかなと思うとつたんです。それがかなり金額的に見たら、昨年より予算は下がつるということに、説明はよう理解できるんじゃけど、納得してねえつていうことなんです。それから、選書のことでも触れられたけど、やはりもっと、何か私から、個人的な意見として、漫画みたいななんが多いと、やっぱりもっと骨のある本をしっかりと買つてもらうて、市民に読んでいただくと、強制的に読めとも言えんでしょうけど、やっぱりしかるべき若い子たちに読んでくれえつて、私らはこの金額を見たときに恥ずかしい。和気町

はねえけど、和気町は昔は600万円、700万円で相当よかった。じゃけど、今ちょっと所長の考え方かどうか知らんけど、あまり低迷しとって、それでも寄附が多いから、あそこはあっちこっちから。だから、新しい本が結構あるけど、そういうことを、選書の基準というんか、あると思うし、これから司書の採用で何ぼでも金は要るんじゃないから、あれですけど、そのあたりは、ここらで100万円節約、200万円節約というたって、決してよそに比べたら、差がつきようるわけじゃから、それに対しての御意見をいただきたい。

○小橋図書館活動課長 選書に関しましては、今年度の司書も新人が3名、それで来年度につきましても、増えるというのは新人となると思います。まだまだこれから勉強しながらということもありますので、県立図書館、それから近隣の図書館、選書がうまい図書館というのはあると思いますので、そういったところへも学びながら、備前市でもオリジナリティーのあるしっかりとした選書をできればと考えております。

予算につきましても、当然新しい図書館ができるに当たっては、どんどん本も入替え、フレッシュなものというのは必要になってくると思っておりますので、今現在はシステムの経費等々で必要最低限しか予算化をしていない中での削減に対応ということではやっておりますが、少しでも増額を目指せるように、これからも頑張っていきたいと思っております。

○森本委員長 ほかにありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

次、最後の範囲になります。

176、10款教育費、6項社会教育費、4目文化財保護費から、最後、187ページ、13款諸支出金までを範囲といたします。

○尾川委員 179ページの文化施設費で委託料、害虫駆除委託料について説明してもらおうと思うんですが。

○江見社会教育課長 市内に文化施設が4施設で、通常、職員がいて管理しているのは3施設になりますけれども、そこの害虫駆除が年に1回、防除駆除を行っております。

○尾川委員 全ての施設について害虫駆除というのは、やっとなされるんですか。特定の箇所だけに限定してやってないようなことはないんじゃないかなと思って。

○江見社会教育課長 それぞれの施設で予算計上しております。

○尾川委員 全ての施設についてやったということで理解したらええんですね。

○江見社会教育課長 はい、そのとおりでございます。

○石原委員 文化財保護費の中の177ページの印刷製本費、別紙によりますと、このうちの153万4,000円がこちらかなと、内容についてお聞かせいただければ。

○江見社会教育課長 このうち、約90万円につきましては、埋蔵文化財管理センターの予算になります。

大きなものを申し上げますと、丸山古墳のパンフレットで、埋蔵文化財管理センターにつつま

しては、市内外の小学校からの見学というのも、年に何回かありまして、コロナ後、今年度につきましても、市外からも市内も含めて4校が見学に来て、その際に子供向けの丸山古墳のパンフレットというのを準備しておりまして、それがなくなってきたということで、来年度予算計上しているものでありますとか、そのほかにも丸山古墳の大人向けのパンフレットというのも作成しております。

それから、各施設で企画展等を行ったときに、図録というものを作成をします。その図録作成等で印刷を行っているものでございます。もちろん施設のパンフレットというのも追加で印刷をする予定でございますので、そういったものを含めてこの金額になっています。

○石原委員 187ページ、学校給食費の一番上の調理場備品、参考資料にもございますが、このうち、伊里共同調理場にスチームコンベクションオーブン549万6,000円ございますけれども、こちらは更新は終わったんじゃないかな、もう一台あるんですか。

○竹林教育総務課長 もう一台ございまして、野菜用と肉魚用と、大きさが違うものが2台ございまして、今年度更新しましたのは、肉魚用ということでしております。

○尾川委員 学芸員の配置というのは、前に定員割れというか、採用をかけたけど、なかなか採用できなんだというのがあったと思うんですけど、その後、どういう状況になっとんかなと思うて、それとこれからどう進めていくんか、ミュージアムとの絡みもあるんですけど、どういう方針でやっていこうとしとんか、説明してもろうたらと思うんですよ。

○江見社会教育課長 学芸員につきましては、今年度新採用の職員で2名採用しております。正職員といたしましては、3名の学芸員となっております。それから、各文化施設にも学芸員1名はおりますので、それを維持するといいますか、学芸員資格としましては維持をしていくということは考えてございます。

先ほど申しましたように、学芸員も今年度新採用2人で、1名についても、役としては主事でございます。また市の学芸員としては経験が浅い職員が多いということで、来年度予算についてもそうなんですが、研修等、今の学芸員のスキルアップというのを重要視して進めていきたいということは考えてございます。学芸員の数だけ増えたけども、経験が浅い人たちばかりというのは好ましくないと思っていますので、事業等につきましても、学芸員の成長とともに充実した文化財管理の事業ができるのではないかと考えております。

○尾川委員 以前は備前焼歴史フォーラムというのが結構やっと思ったと思う。コロナもあつたりして、中座というか、休んだような状況が続いとると思うんですけど、その辺の取組について考え方を教えてもらえたらと思うんです。

○江見社会教育課長 以前、厚生文教委員会でもお答えしたかもしれませんが、先ほど申したとおりで、歴史フォーラムにつきましても、今の学芸員のスキル、そして資質だけで以前のようなフォーラムを大々的に開催するというのは難しいだろうとは考えております。ですので、ここ数年のうちには、フォーラムを復活させるであるとか、学芸員で申しますと、文化財で市の指定と

いうのも、ここかなりの期間やっておりません。そういったところも含めて、指定でありますとか、調査でありますとか、そのフォーラムを含めて進めていきたいと思っておりますので、学芸員の資質向上には取り組みたいというところがございます。

○**青山委員** 179ページ、社会教育費の19節負担金補助金、指定文化財の補助金100万円ほど減額になっていきますけど、理由を教えてください。

○**江見社会教育課長** こ今年度一つ、大滝山の消防設備で、予算規模にすると数百万円のもので市がたしか112万円の補助をしております。そういった大規模な改修とか修繕のものにつきましては、市と県の補助金を使って行いますので、そういったものが事前にある場合は、予算計上しますが、来年度につきましては大きな修繕等の要望はございませんでしたので、減額となっているというところでございます。

○**青山委員** 183ページ、社会教育費、青少年対策費、19節の負担金、去年はFOS少年団の補助金が20万円上がっていて、今回はないんですけど、どのようになっとんですか。

○**江見社会教育課長** FOS少年団について、県も補助等を行っていたんですけども、それを来年度いっぱい取りやめるというお話を聞いております。そのFOS少年団の責任者の方ともお話をして、それは了承を得ていると聞いておまして、市としましても、FOS少年団の活動自体がかなり今、限定的になっているということから、この補助金、一括での補助金ではなくて、例えば先ほどもお答えしたんですが、まなび体験講座の補助金というのが新設をされますので、何かの事業を行って子供を集めて何かの体験事業というのをやったときには、その補助金を使って、例えばその資金でありますとかというのを確保してくださいというような話ができないかなということで、今話を進めておまして、FOS少年団そのものの補助金としては、なくなっているというようなことでございます。

○**青山委員** 存続はしておるということで理解したらよろしいですか。

○**江見社会教育課長** 組織としては、今のところは存続をしています。

○**中西委員** 184ページ、学校給食費、会計年度任用職員報酬、5年度と比べると、1,000万円までもいかないか、近く増額になっていきますんで、このところの人数が増えたんじゃないかと思うんですけども、少し説明をお願いしたいと思います。

○**竹林教育総務課長** 調理員の報酬でございます。トータルの人数としましては、前年度38人、調理員が38人、事務補助4人、運転員6人分を計上しておりますが、6年度の人員につきましては、調理員38人、総数としては変わっておりませんが、内訳としまして、代員と言われるスポットで、調理員が何かあったときに、穴が空いたところに急遽お願いするようなスポット対応の人というのが、前年度38人のうち8人分が代員で組んでおりました。今回38人というのは変わっていないんですが、代員の部分が5人になっておまして、3人については週20時間から30時間のパートタイムということで、その部分が増えております。

また、運転員の人数も、予算上は6.5人分と、実の人間としてというよりは、スクールバス

との兼ね合いでございますので、6. 5人分ということで予定をしておりますので、そういったところで増となっております。

○中西委員 184ページ、役務費、手数料が少し増えているんですけど、何か新しい事業をされるということになるのでしょうか。

○竹林教育総務課長 手数料のうち、78万円ほど前年比で増となっておりますが、そのうち67万3,000円増が来年度、西鶴山共調を伊里共同調理場に機能といいますか、調理を移管する予定としておりますので、その使える機材の移設の手数を計上させていただいておりますので、その分での増となっております。

○中西委員 その下の委託料、先ほどお伺いした浄化槽の維持管理委託料、これが少し減額になっているんですけど、これは先ほどと同じような入札でもされたのでしょうか。

○竹林教育総務課長 これも実績見込みからの減額でございますので、内容等は変わっておりません。

○中西委員 せっかくですから、共同調理場はどのくらい進んでいるんですか。

○竹林教育総務課長 いつだったかの一般質問でも市長が答弁したとおり、方針が多少変更になっておりまして、伊里、日生の2か所に加えまして、吉永もランチルーム等との兼ね合いから存続をとということで指示を受けておりますので、そういったところで今、西鶴山の共調の能力を伊里に持っていくというようなことで検討しておりまして、それにつきましては、西鶴山分だけでございますので、使える機械を持っていったりとか、多少備品類をそろえることによって賄えるんじゃないかと考えております。

○中西委員 じゃあ、調理場のスペースそのものは変わらないということなんですか。

○竹林教育総務課長 増築等はなくともいけるということで考えております。

○尾川委員 183ページ、青少年健全育成の関係で、今どういう活動の取組がされとんか。金額上がっとるけど、センターも横ばいじゃし、そのあたりで青少年育成センターの取扱いというか、取組について説明していただけたらと思うんですよ。

○江見社会教育課長 青少年育成センターにつきましては、会計年度任用職員の指導員が4名、今在籍をしております。日常的な業務といたしましては、毎朝、各校に回りまして、挨拶運動でありますとか、登校時の見守りでありますとか、下校時にも見回りといいますか、回っておりまして、市内各校を順番に回っているような状況でございます。

それから、例えば駅補導といいますか、駅周辺での見回りであるとかといったようなことも行っておりまして、そういったことが日常的な業務としては、毎日行っておりますので、育成センターとしては、そういった業務をやっているのと、それから年に1回、育成大会というのを開いております。市内の小・中学生から募集した標語でありますとか、そういったこともやって大会をしている。これも育成センターで行っております。

○尾川委員 大体センターの方は、先生のOBじゃと勝手な解釈しとんですけど、それで取組と

したら、もっと本質的な取組というのを、いじめ問題でもかなりあると思うんですけど、そういう取組のレベルアップというか、もっと相談業務とか、そういった形の取組というのは、あんまりやられていないんですかね。

○江見社会教育課長 相談業務も、日常業務の一つとしてやってはおります。ただ、一ついろいろな御意見としていただくのが、今この建物、市役所の中の建物に育成センターの職員もおりますので、外から普通に相談に来られた方というのが、教育委員会のところに行って育成センターに行くので、なかなか相談しづらいという話はちょこちょこ聞いておりますので、そのあたりは今後検討していかないといけないところだなとは思ってはおります。

それから、育成センターそのものにつきましても、県内のいろいろな市町村との交流でありますとか、県の協議会というのも持っております、一緒に研修でありますとか、そういう情報交換は常にやっておりますので、そのいいところを取り入れてやっていかないということ、日頃から話はしております。

○尾川委員 確かに私もそう思うとんですよ。あんな感じじゃ、相談もできんと、私らも遠慮しいしいじゃからね。だから、やっぱり相談室なら相談室らしいスペースというものをつくって、ぜひ確保してもらいたいと思います。

○中西委員 前の会計年度任用職員とか、任期付きの職員のところ、社会教育に1人配置がされると伺ったんですけど、社会教育のどこに配置がされるんでしょうか。

○春森教育振興部次長 地域教育課長の池田課長がその人本人になります。任期つきになります。

○中西委員 今日の座席表を見ると、一番後ろに総合政策部長の濱山部長がお見えになつたられるんですけども、今日の予算の中でいえば、どこが対象になるんでしょうか。

○森本委員長 一番後ろにおられる高橋課長のところの所管になりますので、それで入っておられるんです。

○中西委員 図書館の分。

○森本委員長 図書館事業推進課長の。

○中西委員 せっかく入って何か答弁しなければいけない事案があるんだと思うんですよ。

○濱山総合政策部長 図書館関係が11月1日から総合政策部へ所管替えということで、この委員会には参加させていただいております。特にこれから設計が上がってきて、図書館建設のほうへ邁進していく予定ですので、御審議よろしく申し上げます。

○尾川委員 せっかく資料をもろうとるからな。誰に聞きゃええんか、教育総務課長じゃと思うんですけど、図書費の地方交付税の算定額試算というのをもろうとって、それで学校別の算出でその辺の図書費と新聞費と今は分けてくるようになってんですけど、そのあたりの交付税の措置と実際購入というか、費用、予算との違いというか、そのあたりについてはどんなですか、どういう御所見を持たれとんかなと思うて。

○竹林教育総務課長 交付税の算定数値が、例えば今回6年度予算で6年度の算定を使うことは、さすがにまだ資料等が出ませんので、できませんので、1年前、今回でいうと令和5年度の算定数値として計算したものを計上させていただいて、交付税での算入額の全額でいただきますので、その違いというのは特にございません。

○尾川委員 言葉がまた悪いけど、猫ばばしてねえということになるわけね。

○竹林教育総務課長 全くございません。

○森本委員長 歳出を終わります。

次、7ページを開いてください。第2表債務負担行為に入ります。所管別分類表は1ページをお開きください。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

それでは、以上で本日の予算決算審査委員会を閉会いたします。

皆さん、お疲れさまでした。

午後5時08分 閉会